



和同産業株式会社



本社・花巻営業所 〒025-0035 岩手県花巻市実相寺410番地
TEL 0198-24-3221 FAX 0198-41-1221

岩見沢営業所 〒068-0853 北海道岩見沢市大和三条9丁目21-2
TEL 0126-22-6221 FAX 0126-32-2162

長野営業所 〒381-2207 長野県長野市大橋南2丁目19番地
TEL 026-285-0885 FAX 026-285-0887

岡山営業所 〒708-0015 岡山県津山市神戸536-1
※本社へお問い合わせください

九州営業所 〒861-8007 熊本県熊本市北区龍田弓削1丁目28-5
※本社へお問い合わせください

WADOホームページ <https://www.wadosng.jp/>

お客様メモ

購入日	年	月	日
購入店			

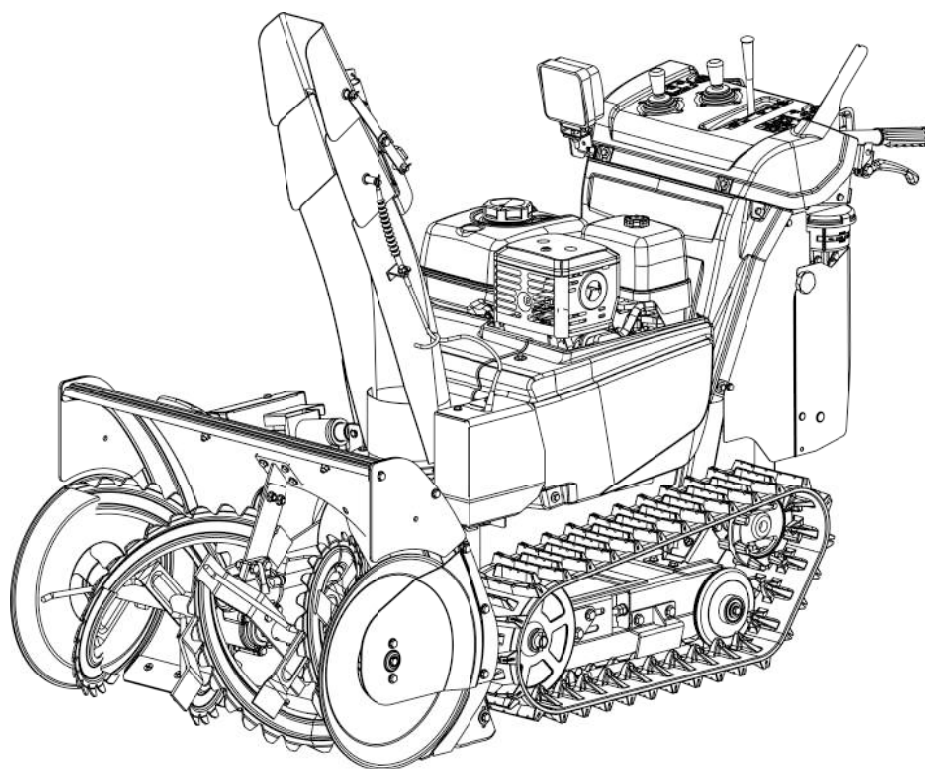
本冊子には再生紙を使用しています。

2024年5月
91911-BA3-000

取扱説明書



除雪機 SXC1380H



当製品を安全に、また正しくお使いいただくために必ず本取扱説明書をお読みください。誤った使い方をすると、事故を引き起こすおそれがあります。

お読みになった後も必ず製品に近接して保管してください。

はじめに

お使いになる前に、取扱説明書を必ずお読みください。

このたびは、和同除雪機をお買い上げいただきありがとうございました。
この取扱説明書は、機械の取扱い方法と、使用上の注意事項について記載
しています。

お願い

- 本機を使用する前に、必ず取扱説明書をよく読んで、十分理解してから使用してください。
- この取扱説明書には、安全に作業していただくために、「1章 安全に作業するために必ずお守りください」を記載しています。ご使用前に必ずお読みください。
- お読みになった後も、この取扱説明書を製品に近接して、いつもお手元に置いてください。
- 本製品を貸したり、譲渡するときは、この取扱説明書を本製品に添付してお渡してください。
- この取扱説明書および警告ラベルを、紛失または損傷された場合は、速やかにお買い上げいただいた販売店にご注文ください。
- ご不明なことやお気付きのことがございましたら、お買い上げいただいた販売店へご相談ください。

おことわり

- 本製品は改良のため、使用部品などを変更することがあります。その際には、本書の内容および写真・イラストなどの一部が、本製品と一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- 本書の内容は、作成にあたり万全を期しておりますが、万一の誤りや記載もれなどが発見されても直ちに修正できないことがあります。販売店へご相談ください。

説明記号の見方



その警告文に従わなかった場合、死亡または、重傷を負うことになるものを示します。



その警告文に従わなかった場合、死亡または、重傷を負う危険性があるものを示します。



その警告文に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。

[重要]

誤りやすい操作に対する注意を示します。守らないと、機械の破損や、故障の原因になります。

[参考]

作業能率を良くしたり、誤った操作をしないための補足説明です。

本製品の使用 目的について

- 本製品は、積雪を除去する除雪作業機としてご使用ください。除雪目的以外の作業や改造などは、決してしないでください。
- 使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりませんのでご注意ください。（保証適用除外事項は、保証書をご覧ください。）

もくじ

はじめに

1章	安全に作業するために必ずお守りください	1
・ 1.	一般的な注意項目	1
・ 2.	作業前後の確認時の注意項目	4
・ 3.	輸送時の注意項目	10
・ 4.	移動・作業時の注意項目	12
・ 5.	作業終了後・格納時の注意項目	18
・ 6.	警告ラベルの貼り付け位置	19
2章	保証とサービスについて	21
3章	各部のなまえ	22
4章	各操作部のはたらき	24
5章	運転前の準備・点検	31
6章	運転・移動のしかた	32
7章	除雪作業のしかた	45
8章	定期点検	49
9章	点検・整備のしかた	50
10章	長期間使用しないときの手入れ	65
11章	不調診断のしかた	67
12章	主要諸元	69
13章	主要消耗部品および標準付属品	71

1章 安全に作業するために必ずお守りください

ここに記載されている注意事項を守らないと、死亡を含む傷害や事故、機械の破損が生じるおそれがあります。

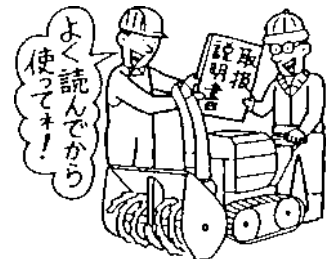
1. 一般的な注意項目



「取扱説明書」や「警告ラベル」をよく読んで。

本機を使用する前に、必ず「取扱説明書」や「警告ラベル」をよく読んで、十分理解してから使用してください。

取扱説明書に記載されている注意事項を守らないと、死亡を含む傷害や事故、機械の破損等が生じるおそれがあります。



こんな人は運転しない。

- 過労・病気・薬物の影響、その他の理由により作業に集中できない人
- 酒を飲んだ人
- 妊娠している人
- 18歳未満の人
- 睡眠不足の人
- 操作する体力に自信のない人
- 運転が未熟な人
- 視力不足のため、表示内容が読めない人
- 取扱説明書の内容が理解できない人

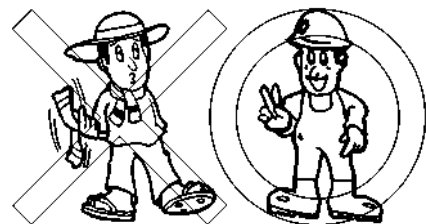


すべりにくい靴・手袋などの作業に適した服装を心がける。

はち巻き、マフラー、その他機械に巻き込まれそうな服装は危険です。ヘルメット、すべり止めの付いた長靴、手袋を着用し、作業しやすい、だぶつきのない服装にしてください。

【守らないと】

衣服が機械に巻き込まれたり、足をすべらせて転倒事故をまねくおそれがあります。



除雪目的以外の作業は絶対に禁止。

本機は除雪機です。除雪目的以外の作業は絶対にしないでください。

【守らないと】

死亡事故や重大な傷害、機械の故障をまねくおそれがあります。



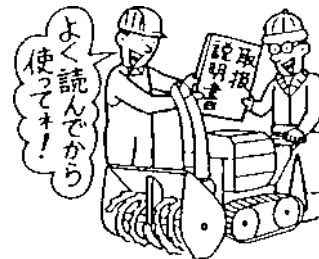


機械を他の人に貸すときは取扱説明書を読むように指導する。

取扱方法をよく説明し、使用前に「取扱説明書」を必ず読むように指導してください。

【守らないと】

理解不足により死亡事故や重大な傷害、機械の故障をまねくおそれがあります。

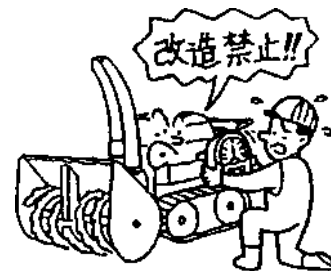


機械の改造や指定以外のアタッチメントの装着禁止。

改造をしないでください。

【守らないと】

死亡事故や重大な傷害、機械の故障をまねくおそれがあります。



機械の中に手を入れない。

カバーの内側には回転部や可動部があり、むやみに手などを入れると大変危険です。やむをえないときは必ずエンジンを停止してから行なってください。

【守らないと】

回転物などに巻き込まれ、傷害事故をまねくおそれがあります。



高圧洗浄機を使用しない。

本機を洗う際には高圧洗浄機を使用しないでください。

【守らないと】

- 電気配線部被覆の損傷、断線により、火災をおこすおそれがあります。
- 電装品への水の浸入により、故障するおそれがあります。
- 機械が破損、損傷、故障するおそれがあります。
- 塗装、メッキ、ラベルが剥がれるおそれがあります。



電装品に水をかけない。

電装品に水をかけないでください。

【守らないと】

- 機械の誤動作により、傷害事故をおこすおそれがあります。
- 電装品の故障の原因になります。

2. 作業前後の確認時の注意項目

⚠ 危険

注油・給油はエンジンが冷めてから行なう。

エンジン運転中や、エンジンが熱い間は、絶対に注油・給油をしないでください。

【守らないと】

燃料などに引火し、火災の原因となることがあります。



⚠ 危険

燃料補給時は火気厳禁。

燃料補給時は、くわえ煙草や裸火照明など火気厳禁です。

【守らないと】

燃料に引火し、火災をおこすおそれがあります。



⚠ 危険

バッテリー一点検時は火気厳禁。

バッテリーからは可燃性ガスが発生しているため、取扱い時は火気厳禁です。

【守らないと】

火災や爆発によるやけどや死亡事故を引き起こすおそれがあります。



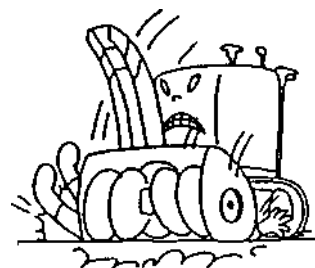
⚠ 危険

機械の下にもぐったり、足を踏み入れない。

機械の下にもぐったり、足を踏み入れたりしないでください。

【守らないと】

何かの原因で機械が動いたときに、傷害事故をおこすおそれがあります。



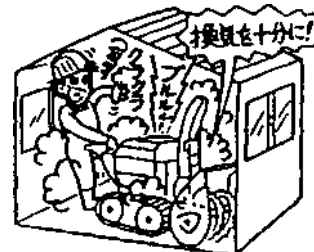
⚠ 危険

排気ガスには十分に注意。

しめきった屋内などではエンジンを始動しないでください。エンジンは風通しのよい屋外で始動してください。やむをえず屋内で始動する場合は、十分に換気してください。

【守らないと】

排気ガスによる中毒を起こし、死亡事故にいたるおそれがあります。



⚠ 危険

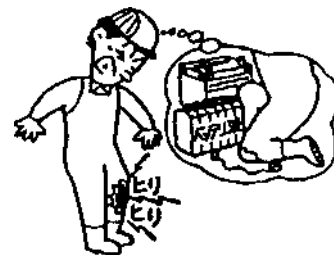
バッテリーの取扱い時は、保護具を着用し、バッテリー液を身体や衣服に付着させない

バッテリーの取扱い時は、保護メガネ、ゴム手袋等の保護具を着用し、バッテリー液（希硫酸）が身体や衣服に付着しないようにしてください。

万が一付着した場合は、直ちに下記の応急処置を行ってください。

身体に付着した場合は、応急処置の後直ちに専門医の診断を受けてください。

- a) 衣類に付着した場合：付着した衣類を脱ぎ、流水でよく洗ってください。
- b) 皮膚に付着した場合：付着した箇所を洗剤と流水でよく洗ってください。
- c) 目に付着した場合：まぶたを指でよく開いて、長時間(15分以上)流水でよく流してください。
- d) 飲み込んだ場合：何度もうがいを繰り返して、その後多量の水を飲んでください。また、一度飲み込んだものは無理に吐き出さないでください。



【守らないと】

- ・衣類が破けたり穴が空いたりするおそれがあります。
- ・やけど、失明、死亡事故、その他重大な症状を引き起こすおそれがあります。

⚠ 警告

バッテリーは液面が「下限（LOWER）」以下になったままで使用や充電をしない。

- ・バッテリー液が不足していれば、すぐに「上限（UPPER）」と「下限（LOWER）」の間に補水してください。
- ・充電は機械から取外して行なってください。
- ・充電は風通しのよい所で行なってください。
- ・放電したバッテリーにブースタケーブルなどを接続して始動するときは、取扱方法をよく読みそれに従ってください。

【守らないと】

「下限（LOWER）」以下で使用や充電を続けると、バッテリーの寿命を縮めるばかりでなく、爆発の原因となることがあります。





燃料もれに注意。

燃料もれを防ぐため、燃料パイプに破損がないことを必ず点検してください。

【守らないと】

火災事故を引き起こすことがあります。



燃料タンクキャップをしめ、こぼれた燃料は拭き取る。

燃料を補給したときは、燃料タンクキャップを確実にしめ、こぼれた燃料はきれいに拭き取ってください。

【守らないと】

火災事故を引き起こす原因になります。



バッテリー端子の取付け取外しは正しい手順で。

バッテリー端子を取付けるときはプラス側を先に取付け、取外すときはマイナス側を先に取外します。

【守らないと】

ショートして、火災が起こり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



バッテリー端子の接続は正しく確実に。

バッテリー端子のプラス側とマイナス側を接触させたり、プラス側を機械に接触させないでください。

【守らないと】

ショートして、火災が起こり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



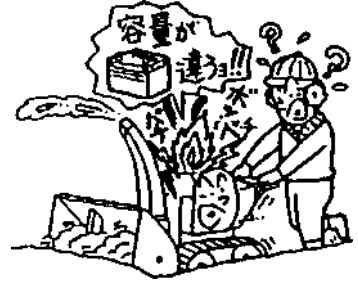


必ず指定のバッテリーを使用。

バッテリーを交換するときは、必ず取扱説明書で指定されたバッテリーを使用してください。

【守らないと】

ショートして、火災が起こり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。 ※指定のバッテリーはP.61参照



電気部品・コードは必ず点検。

配線コードが他の部品に接触していないか、被覆のはがれや接触部のゆるみがないか点検してください。

【守らないと】

ショートして、火災の原因となることがあります。



除雪する場所にある異物はあらかじめ取り除く。

あらかじめ除雪する場所の木片・ビニール・ビン・カン・ホース・ナワ・布切れ・およびその他の異物をすべて取り除いてください。

【守らないと】

除雪作業中に取り込んだ異物などが飛び出し、思わぬ傷害事故をまねくおそれがあります。



マフラー・エンジンのゴミは取り除く。

マフラーやエンジン周辺部にゴミや燃料など付着していないか作業前に点検し、付着していれば取り除いてください。

【守らないと】

火災事故やオーバーヒートを引き起こすおそれがあります。



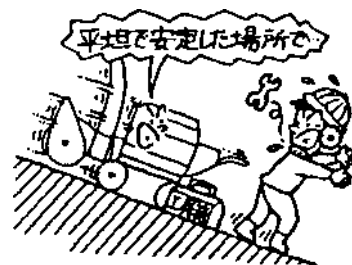


点検整備は平坦で安定した場所で行う。

交通の危険がなく、機械が倒れたり動いたりしない平坦で安定した場所で点検整備をしてください。

【守らないと】

機械が転倒するなど、思わぬ事故をまねくおそれがあります。



作業前には必ず安全装置を確認する。

作業前に安全装置の取扱いと、適切に働くかどうかを確認してください。

【守らないと】

安全装置が作動せず、死亡事故や重大な事故をまねくおそれがあります。



作業前・後は必ず機械の点検をする。

使用の前と後には必ず機械の点検をしてください。特にクラッチ・レバーなどの操作装置は確実に作動することを確認してください。

【守らないと】

整備不良による事故や機械の故障を引き起こすおそれがあります。

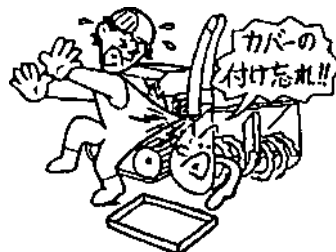


カバー類は必ず取付ける。

点検・整備などで取外したカバー類は、必ず取付けてください。

【守らないと】

機械に巻き込まれたりして、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



注意

点検整備は高温部が十分に冷めてから。

マフラーやエンジンなどの高温部が十分冷めてから点検整備をしてください。

【守らないと】
火傷をするおそれがあります。



注意

機械の点検整備・清掃などをするときにはエンジンを停止する。

【守らないと】
思わぬ傷害事故の原因となります。



3. 輸送時の注意項目



トラックへの積み降ろし時は、強度・幅・長さが十分なアユミ板を使用する。

アユミ板は丈夫ですべり止めのある、基準にあったものを使用してください。

【守らないと】

アユミ板が折れたりして、転落などの事故をまねくおそれがあります。

<アユミ板の基準>

強度：機械の重量に十分に耐えうるもの

幅：機械のクローラ幅の1.2倍以上のもの

長さ：地面から荷台までの距離（高さ）の4倍以上のもの（積載時の傾斜が約14°以下）

表面：すべり止めのあるもの

形状：フックのあるもの

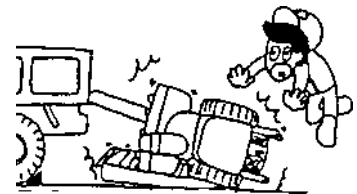


アユミ板を確実に固定する。

積み降ろしに使用するトラックの荷台からズレたり、外れたりしないように確実にアユミ板を固定してください。

【守らないと】

転落などの事故をまねくおそれがあります。

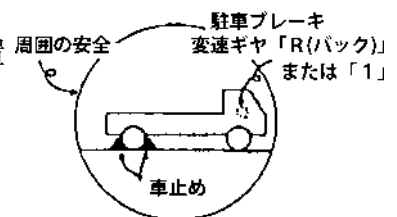


トラックには必ず車止めを。

積み込むトラックのエンジンを止め、変速レバーは「P」または、「1」・「R」位置に入れ、駐車ブレーキをかけて、車止めを設置してください。

【守らないと】

トラックが動いて転落などの事故などをまねくおそれがあります。



積み降ろし作業は、誘導者を配置。

トラックなどからの積み降ろし作業は、誘導者を配置、周囲の安全を十分に確認してください。

【守らないと】

転落などの事故をまねくおそれがあります。



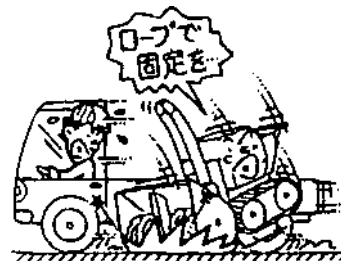


ロープで確実に固定する。

トラックにのせて移動するときは、十分に強度のあるロープでトラックに確実に固定してください。

【守らないと】

荷台から機械が転落したり、事故をまねくおそれがあります。

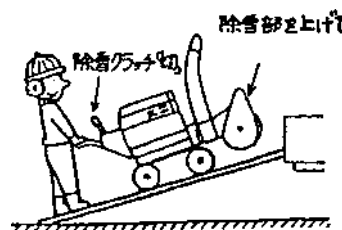


積み降ろし作業時は、必ず除雪クラッチを切る。

トラックへの積み降ろしの際は、必ず除雪クラッチを切ってください。走行クラッチレバーを一度放すと除雪クラッチが切れます。

【守らないと】

回転部がアユミ板に接触し、転落やひかれ・挟まれなどの事故をまねくおそれがあります。

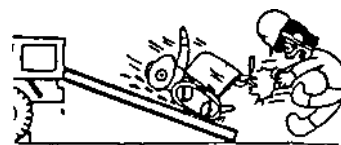


アユミ板の上では主変速レバー、走行クラッチレバー、サイドクラッチレバーの操作厳禁。

トラックへの積み降ろしの際は、アユミ板の上で進路変更をしなくても良いように進路を定め、低速で行ってください。主変速レバーを「N」(中立)位置にしたり、走行クラッチレバー、サイドクラッチレバーの操作をしたりしないでください。

【守らないと】

転落やひかれ・挟まれなどの事故をまねくおそれがあります。

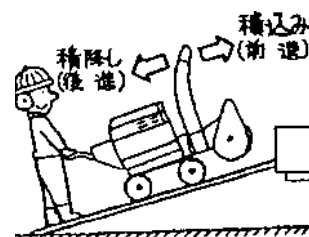


登るときは前進、降りるときは後進で。

トラックへ積み込むときは前進で、降りるときは後進で行なってください。

【守らないと】

バランスを崩し、転落などの事故の原因となります。



4. 移動・作業時の注意項目

⚠ 危険

クラッチレバーを改造したり、固定した状態で運転しない。

【守らないと】

安全装置が正常に作動しません。本機が停止せず、ひかれ・挟まれなどによる死亡事故を引き起こすおそれがあります。



⚠ 危険

つまった雪や異物を取り除くときは、エンジンを停止し、備え付けの雪かき棒で行う。

【守らないと】

機械に巻き込まれて死亡事故や重大な事故をまねくおそれがあります。



⚠ 危険

シャーボルトはエンジンを停止して交換する。

シャーボルトの交換は必ずエンジンを停止してから行ってください。

【守らないと】

機械が動いたり、オーガやブロワが回転し重大な事故を引き起こすおそれがあります。



⚠ 危険

除雪作業中は機械のまわりに人や動物を近づけさせない。

特に子供には十分に注意し、近づけさせないようにしてください。

【守らないと】

思わぬ傷害事故の原因となることがあります。





後進するときは低速で、障害物に注意。

後進するときは低速で行い、転倒しないように足元に十分に注意し、後方に障害物がないか確認して、障害物と機械の間に挟まれないようにしてください。

【守らないと】

機械に挟まれたり、転倒などの重大事故のおそれがあります。



オーガ回転中は危険。近づかない。

オーガ回転中は危険なので近づかないでください。また、除雪クラッチを操作するときは、周囲の安全を確かめてから行ってください。

【守らないと】

オーガに巻き込まれて死亡事故や重傷を負うおそれがあります。



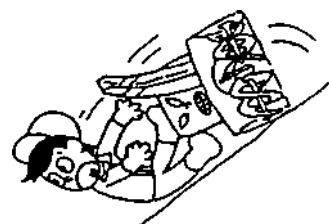
坂道は走行注意。

急な坂道は走行しないでください。

緩やかな坂道を走行する場合は、転倒やスリップに気を付けて、低速でゆっくりと移動してください。

【守らないと】

機械の横転、暴走など思わぬ事故を引き起こす原因となります。



坂道では駐車禁止。

【守らないと】

機械が動き出し、事故の原因となります。





坂道での変速レバー・サイドクラッチの操作禁止。

坂道の途中で主変速レバーを「N」(中立)位置にしたり、サイドクラッチ操作はしないでください。

【守らないと】

滑り落ちたり、転倒などの事故の原因となります。

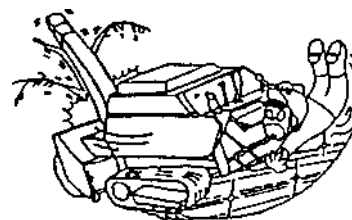


凍結時は十分に注意し低速で。

凍結した滑りやすい路面ではなるべく作業しないでください。やむをえない場合は、十分注意し低速で行ってください。

【守らないと】

転倒事故などの原因となります。



わき見運転・手放し運転禁止。

【守らないと】

思わぬ方向への飛散物や機械の巻き込みなどにより、機械の破損、死亡事故や重大な事故を引き起こす原因となります。

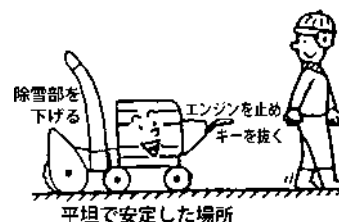


機械から離れるときは平坦地に置きエンジンを停止する。

機械から離れるときは、平坦で安定した場所に置き、除雪部を下げエンジンを停止し、エンジンスイッチ(キー)を抜いてください。

【守らないと】

機械が動きだし、事故の原因となります。



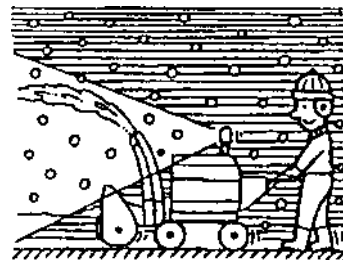


運転時は作業灯を点灯する。

【守らないと】

視界不良により事故などの原因となります。

※この機械は、エンジンスイッチを「入」位置にすると作業灯が点灯します。万が一エンジンスイッチを「入」位置にしても作業灯が点灯しない場合は、直ちに販売店へ修理を依頼してください。



投雪方向には十分に注意する。

人、自動車、建物などには十分に注意して、安全な場所へ投雪してください。砂利道では石飛びのおそれがあるため、細心の注意を払い除雪してください。

【守らないと】

飛散物により、ケガや破損など思わぬ傷害事故を引き起こすおそれがあります。



エンジンを始動する時は、走行クラッチレバーから手を放し、除雪クラッチスイッチが切れている（ランプが消えている）事を確認する。

【守らないと】

機械が急発進して重傷をまねくおそれがあります。

※この機械はクラッチが入っているとエンジンが始動しない構造になっています。

万が一クラッチが入っている状態でエンジンが始動する場合は、直ちに販売店へ修理を依頼してください。

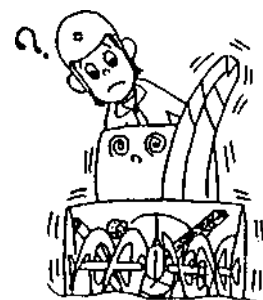


機械の異常に気付いたらすぐにエンジンを停止する。

異物が当たったり、巻き付いたり、異常振動・異音・異臭などに気付いたら、すみやかにエンジンを停止し、高温部が冷めてから異物を除去し、機械を点検してください。

【守らないと】

死亡事故や重大な傷害、機械の故障をまねくおそれがあります。



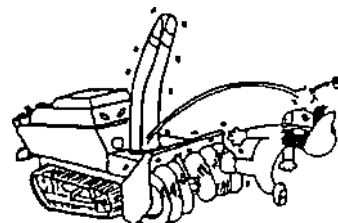


回転部に手・足・顔を近づけない。

回転している部分やシュータをのぞき込んだり、手・足を絶対に近づけないでください。

【守らないと】

巻き込まれたり、飛散物などにより死亡事故や重大な事故を引き起こすおそれがあります。



燃えているものの上やその近くは走行禁止。

【守らないと】

燃料やオイルなどに引火して、火災を引き起こすおそれがあります。



急発進・急旋回・急停止やスピードの出しすぎ禁止。

発進・停止は緩やかに行ってください。旋回するときは、十分に速度を落としてください。また、凸凹道やカーブの多い場所では十分に速度を落としてください。

【守らないと】

機械の破損、事故の原因となることがあります。



移動時は路肩に注意。

側溝のある道路や路肩が大きく傾斜している道路では、十分に注意し走行してください。

【守らないと】

転落事故を引き起こすおそれがあります。



注意

傾斜面を横切る向きで作業は行わない。

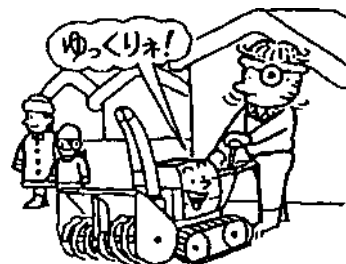
【守らないと】
転倒事故を引き起こすおそれがあります。



注意

周囲の安全を確かめ低速で発進する。

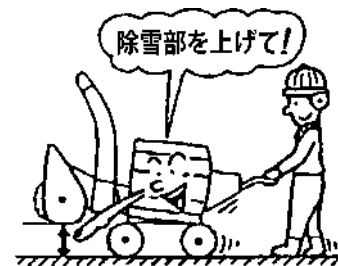
周囲の安全を確認して低速で発進してください。
【守らないと】
思わぬ事故をまねくおそれがあります。



注意

移動の際は、除雪部を上げ、除雪クラッチが切れている事を確認する。

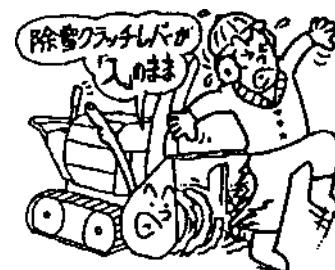
【守らないと】
思わぬ巻き込まれ事故をまねくおそれがあります。



注意

オーガへの巻き込まれに注意。

除雪作業時以外は、除雪クラッチを「入」にしないでください。
オーガが回転し危険です。
【守らないと】
思わぬ巻き込まれ事故をまねくおそれがあります



5. 作業終了後・格納時の注意項目

⚠ 危険

シートなどは機械が十分に冷めてからかける。

【守らないと】
火災事故を引き起こすことがあります。



⚠ 警告

機械の清掃・点検をするときはエンジンを停止する。

【守らないと】
機械に巻き込まれて死亡事故や重大な事故をまねくおそれがあります。

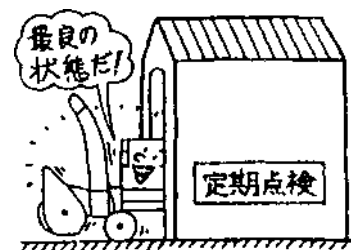


⚠ 注意

定期点検・整備を受けてください。

1年ごとに定期点検を受け、各部の保守をしてください。

【守らないと】
整備不良による事故や、機械の故障を引き起こすおそれがあります。



重要

長期格納時は燃料を抜き、バッテリーを取外す。

長期間格納する場合は、燃料タンク・キャブレターの燃料を抜き、バッテリーを取外してください。

【守らないと】
燃料が変質してエンジンの不具合を引き起こしたり、故障の原因となることがあります。



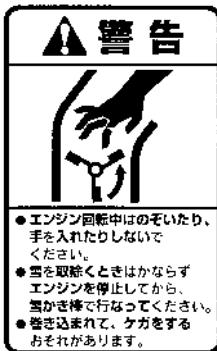
6. 警告ラベルの貼り付け位置

警告ラベルは、使用者および周囲の人への危険を知らせる重要なものです。

- ・ラベルが損傷した場合はできるだけ早く貼り替えてください。なお、注文の際には、この図に示す部品番号をお知らせください。
- ・本機を洗う際は、高圧洗浄機を使用しないでください。高圧水によりラベルが剥がれるおそれがあります。

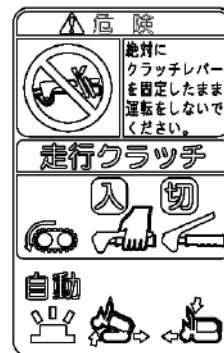
品番：91194-004

品名：ブロワ警告ラベル



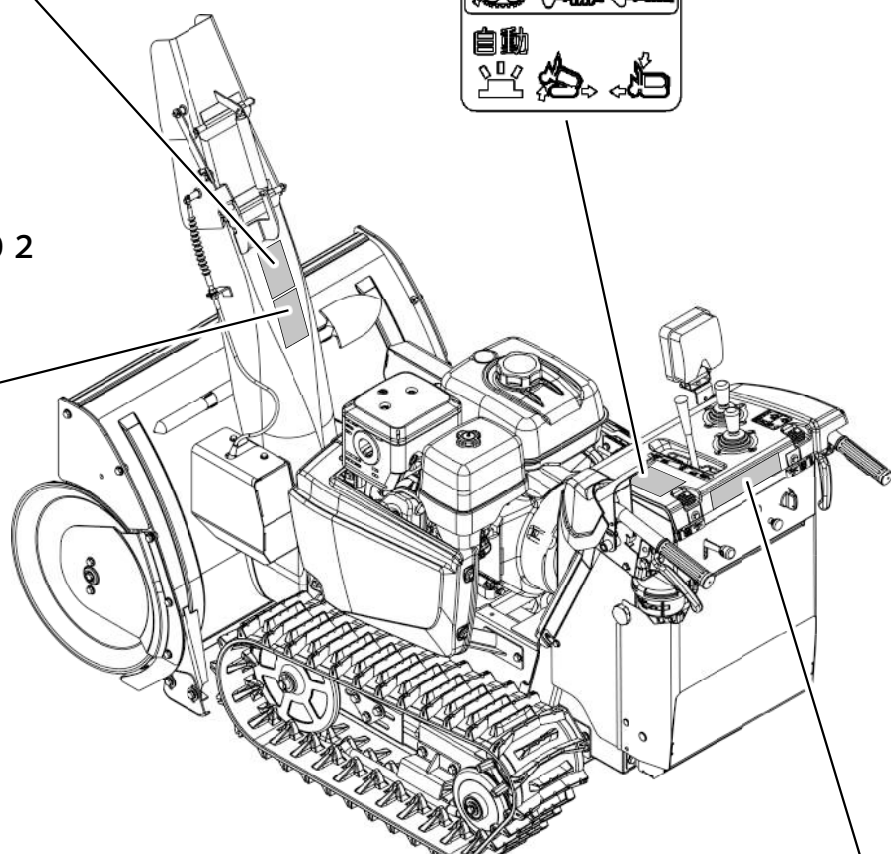
品番：79903-BA3-001

品名：コンビネーションラベル



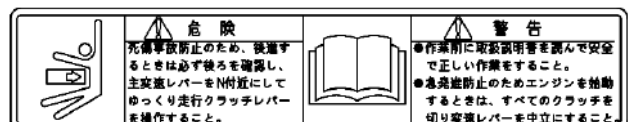
品番：91194-002

品名：飛散警告ラベル





品番：91193-012

品名：後進危険取扱説明書警告ラベル




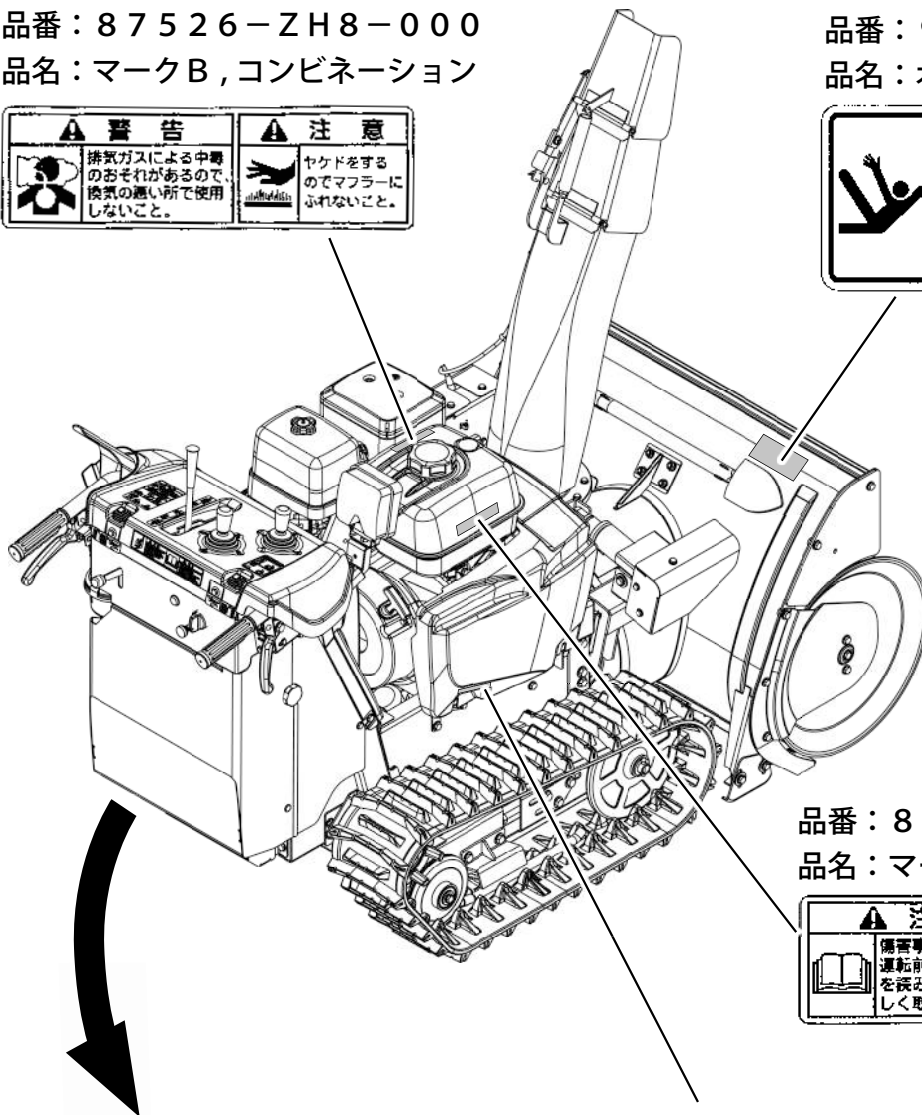
1章 安全に作業するために必ずお守りください

品番：87526-ZH8-000
品名：マークB, コンビネーション



警告	注意
 排気ガスによる中毒のおそれがあるので、換気の悪い所で使用しないこと。	 ヤケドをするのでマフラーにふれないこと。

品番：91193-006
品名：オーガ危険ラベル (ヨコ)


危険
 ● エンジン回転中はのぞいたり、手を入れたりしないでください。 ● 雪を取除くときはかならずエンジンを停止してから、雪かき棒で行なってください。 ● 巻き込まれて、ケガをするおそれがあります。

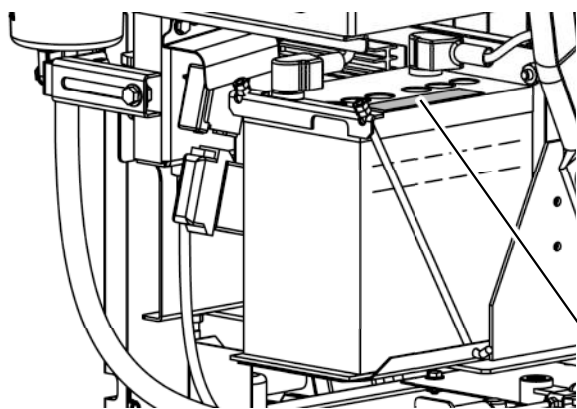


品番：87520-ZH8-000
品名：マークA, コンビネーション

注意	警告
 傷害事故防止のため、運転前に取扱説明書を読み、理解して正しく取扱うこと。	 火災や爆発により死傷するおそれがあるので、 ● 給油時にはエンジンを停止すること。 ● 給油口に火近づけないこと。





品番：91195-010
品名：カバー注意ラベル

注意		● カバー類は常に装着してください。 ● ケガをするおそれがあります。
-----------	--	--



<リヤカバー内部>

品番：91193-023
品名：バッテリー危険ラベル

株式会社 シーエスコア バッテリー	危険 公称電圧 12V	使用開始
 火気禁止	 メガネ着用	年 _____ 月 _____ km _____
 火気厳禁	 禁煙	
● 水素ガス発生、取扱いを誤ると引火・爆発の恐れあり ● 工具等でショートやスパークさせない・充電は風通しのよい所で行う ● プラスターケーブルの使用は取扱説明書に従う ● バッテリー液（希硫酸）で失明ややけどの恐れあり ● 液がつかいたらすぐに多量の水で洗い、目の場合は医師の治療を受ける ● 爆発の恐れあり、液漏れは LOWER 以下で使用しない ● 液漏れの恐れあり、UPPER 以上に補水しない		
UR009 読取注意 説明書参照 爆発注意		

2章 保証とサービスについて

保証書は大切に保管してください

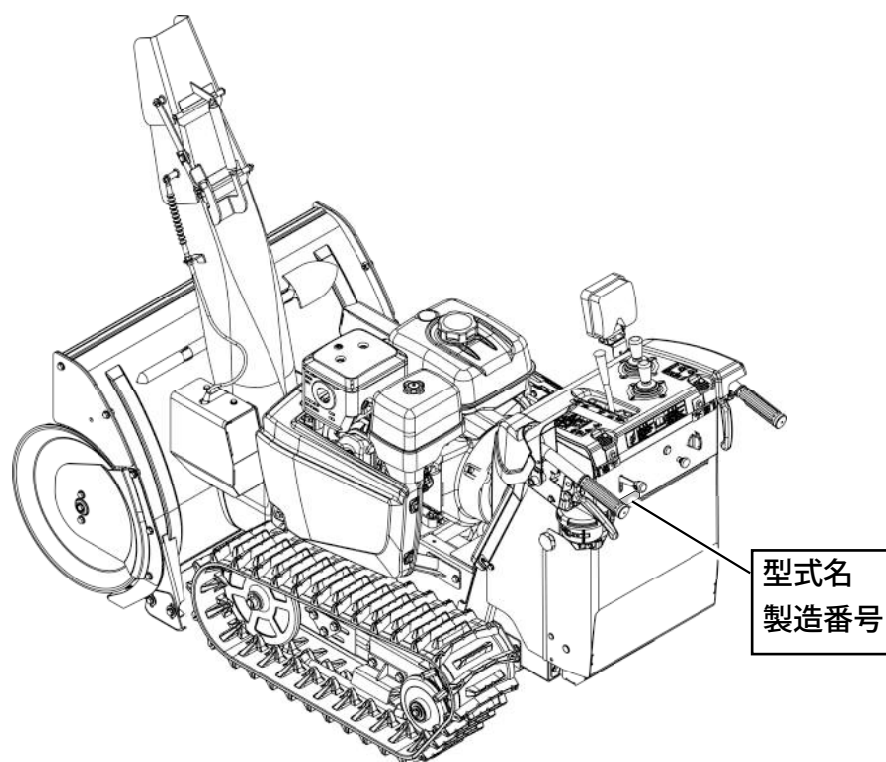
「保証書」は、お客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。お読みになった後は大切に保管してください。

アフターサービスをお受けになるときは

機械の調子が悪いときは、P.67の「11章 不調診断のしかた」に従って、点検・処置してください。不具合が解消しないときは、下記の点を明確にして、お買い上げいただいた販売店までご連絡ください。

<連絡していただきたい内容>

- 型式名と製造番号
- 普段のご使用状況は？
(車速、気温、雪の状態、作業者 など)
- どのくらい使用されましたか？
(約□□時間使用后)
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しくお教えてください。
(車速や、どんな作業をしていたときか など)

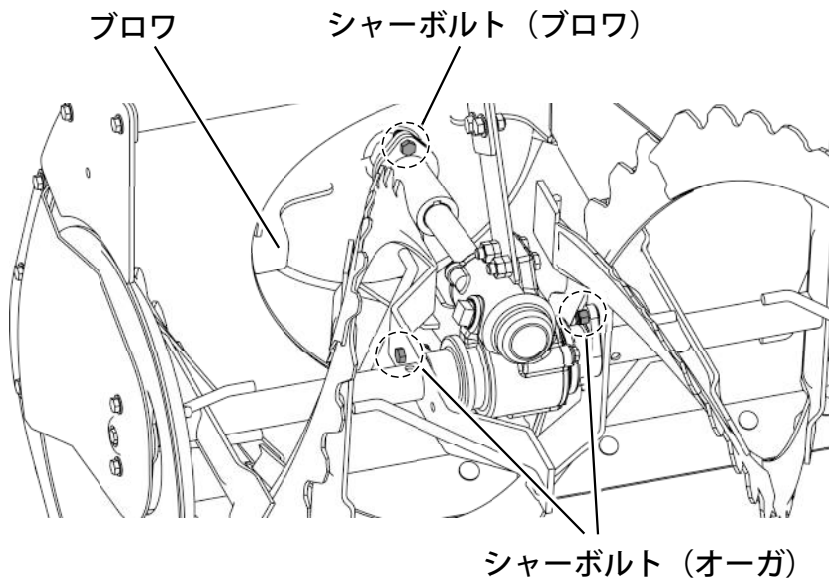
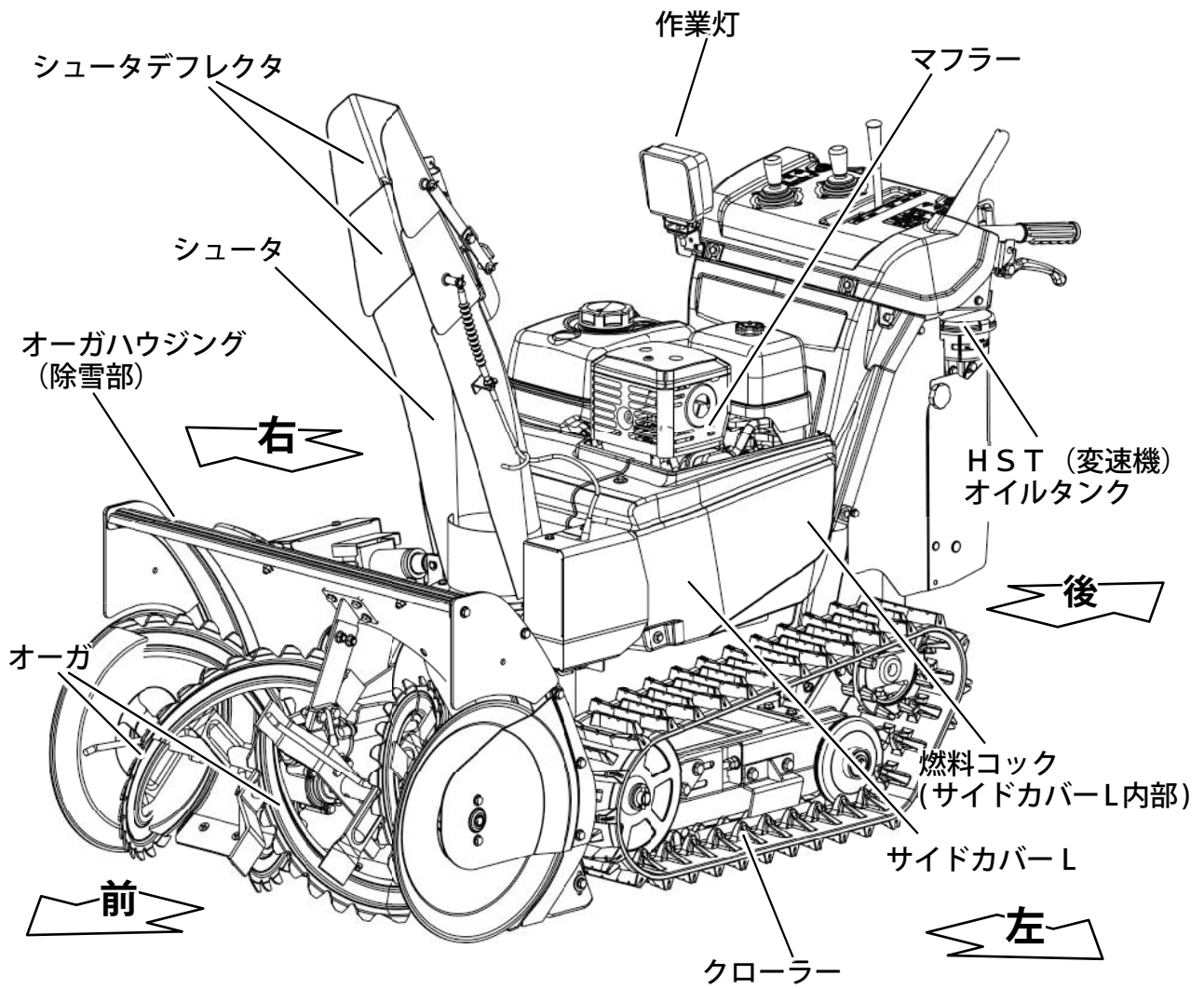


補修部品の供給年限について

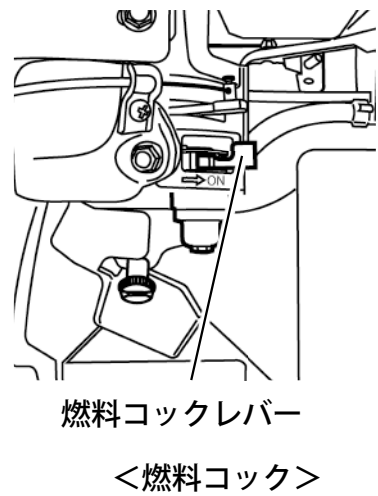
この製品の補修用部品の供給年限(期間)は製造打ち切り後9年です。ただし、供給年限内であっても、納期などをご相談させていただく場合があります。

補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限にて終了致しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談のうえ、対応させていただく場合がございます。

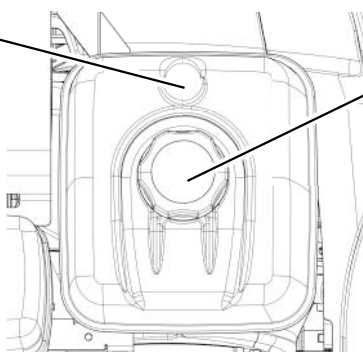
3章 各部のなまえ



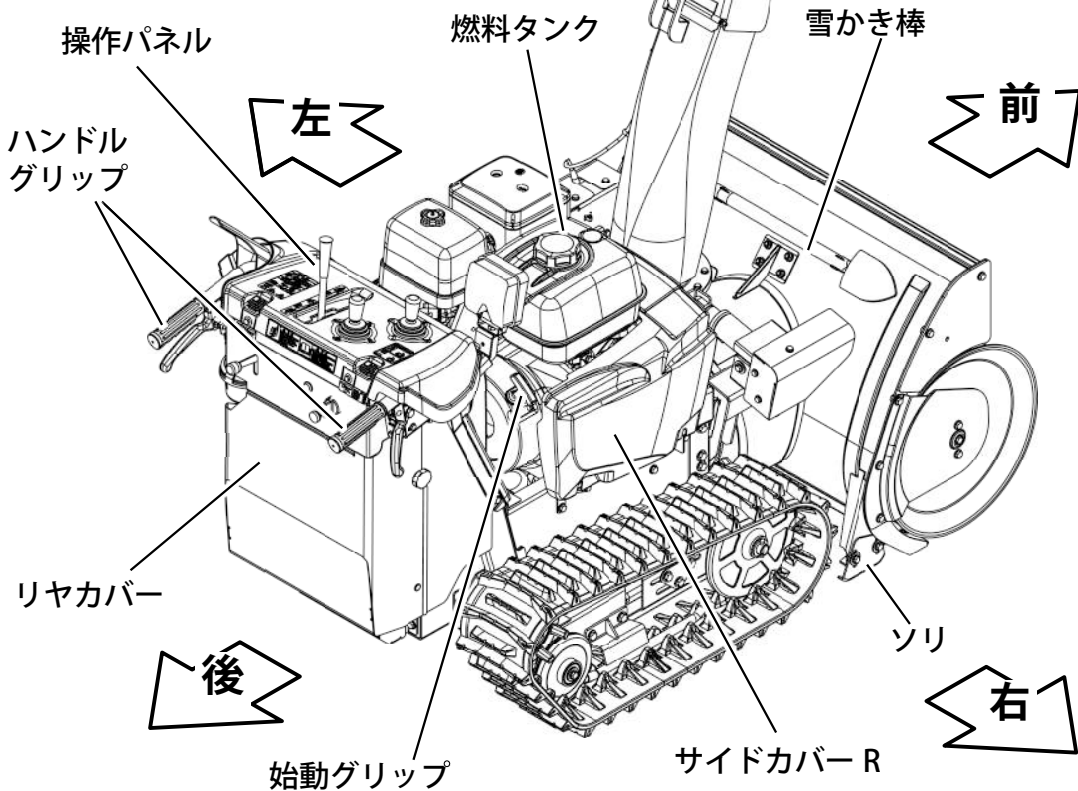
<オーガハウジング内部>



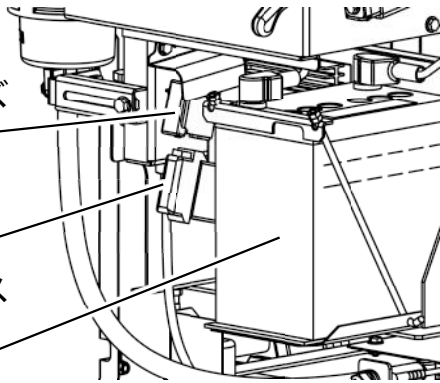
燃料計 燃料タンクキャップ (給油口)



<燃料タンク>

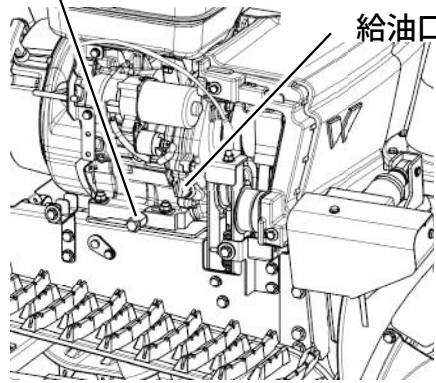


ブレードヒューズボックス
スローブローヒューズボックス
バッテリー



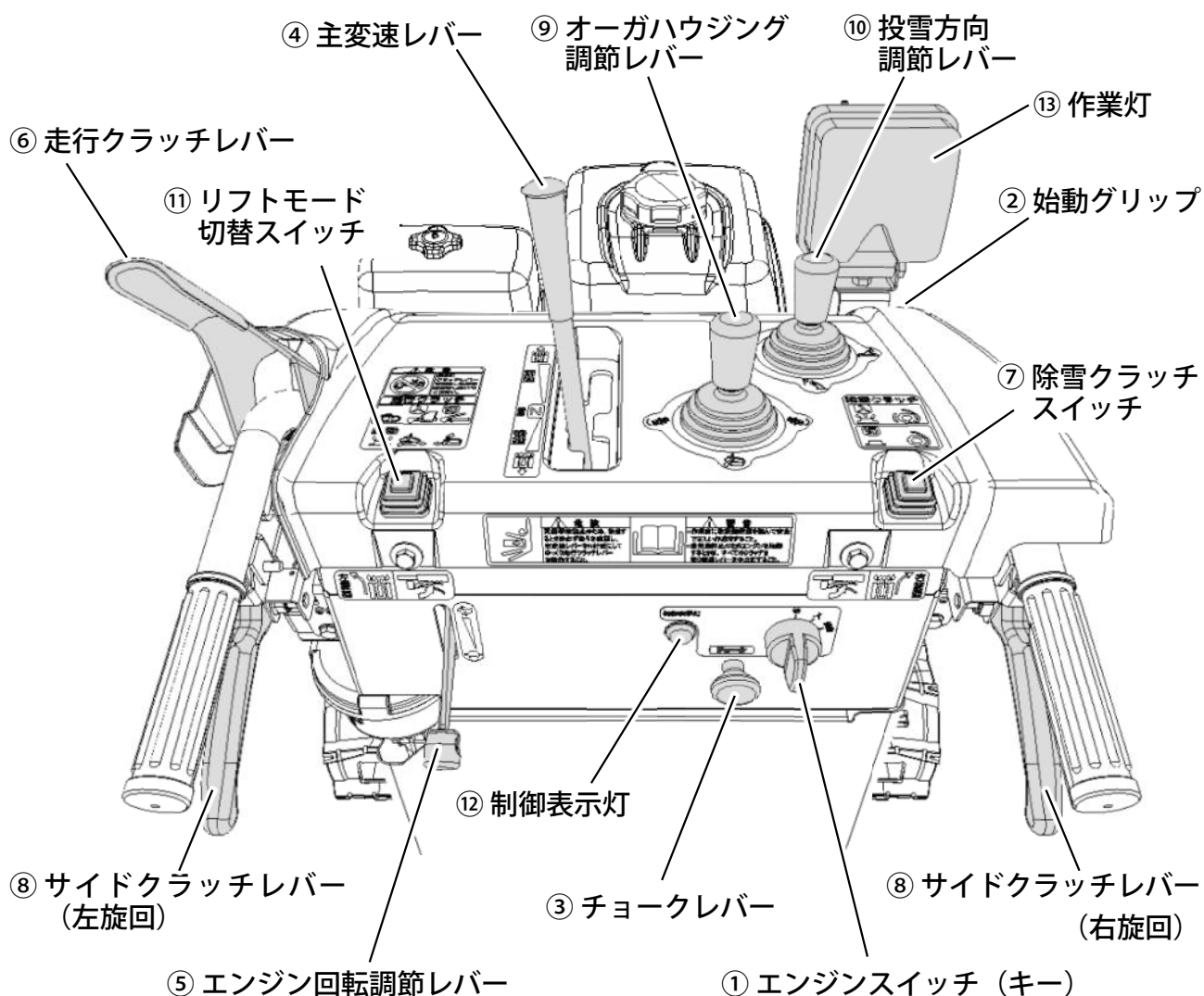
<リヤカバー内部>

エンジンオイル排出口 エンジンオイル給油口



<サイドカバー R内部>

4章 各操作部のはたらき



① エンジンスイッチ

エンジンを始動、運転、停止するときに操作します。

「切」・・・エンジンを停止する位置です。（キーの抜き取り、差し込みができます）

「入」・・・エンジン運転中の位置です。各電気系統がつながります。

「始動」・・・エンジンを始動するときこの位置まで回します。

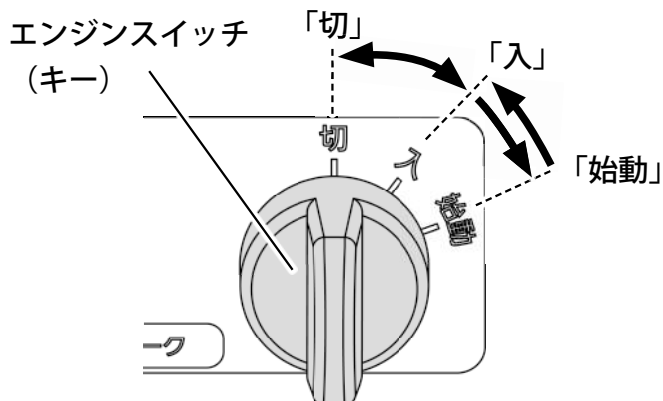
エンジン始動後はキーから手を放します。

エンジンスイッチ（キー）は自動的に「入」位置に戻ります。

[参考]

主変速レバーと走行クラッチレバーにはエンジンスイッチとの連動機構が装備されています。

主変速レバーが「N」（中立）位置で、なおかつ走行クラッチレバーが「切」位置の状態でのみエンジンを始動できます。



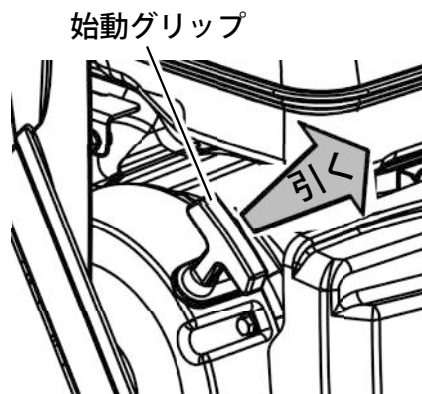
4章 各操作部のはたらき

②始動グリップ

エンジンの始動を行なうグリップです。始動グリップでエンジンを始動するときは、エンジンスイッチを「入」位置にして行なってください。

[重要]

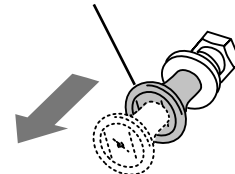
始動グリップは、手を添えて静かに戻してください。



③チョークレバー

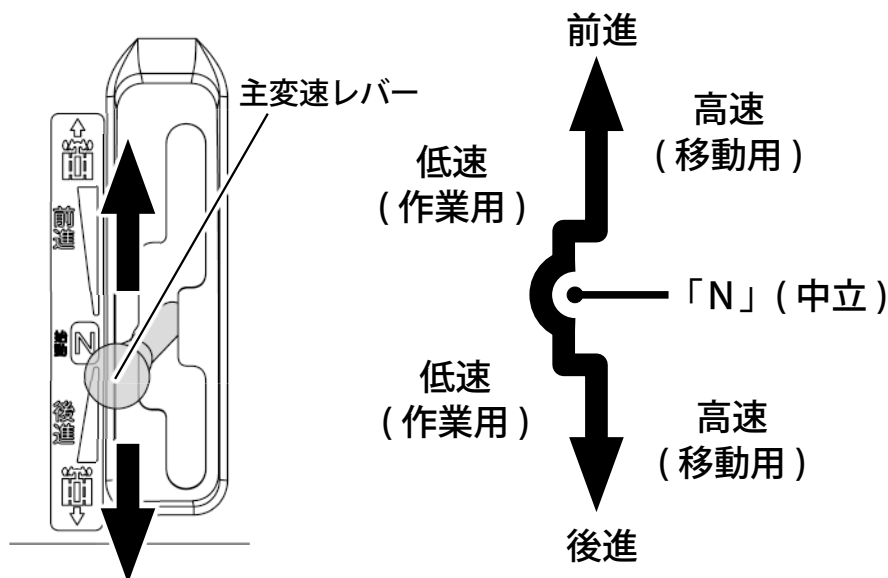
寒いときやエンジンがかかりにくいときに、チョークレバーを引いた状態にします。エンジンが始動したら、エンジン回転が安定することを確認しながら徐々に戻します。エンジンが暖まっているときは操作不要です。チョークレバーをねじ回したり、引きすぎないでください。

チョークレバー



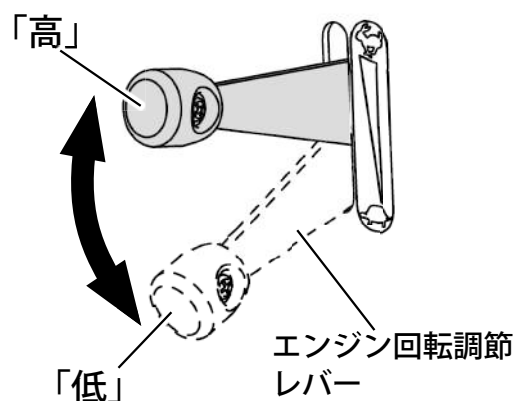
④主変速レバー

除雪機を前進・後進させるときに操作します。低速側（作業用）、高速側（移動用）に分かれ、それぞれ前進、後進の速度を無段階に調節することができます。



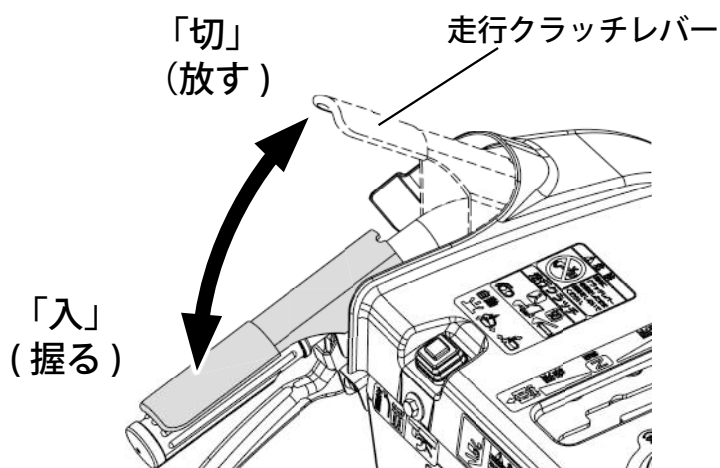
⑤エンジン回転調節レバー

エンジン回転を調節するときに操作します。
「高」側へレバーを操作すると回転は上がり、
「低」側へレバーを操作すると回転は下がります。
作業時は「高」位置でご使用ください。



⑥走行クラッチレバー

トランスミッションへの動力の断接をするときに操作します。走行クラッチレバーを握り「入」位置にすると、トランスミッションへ動力が伝わり、放すと「切」位置になり動力は伝わりません。



⚠ 危険

クラッチレバーを改造したり、固定した状態で運転しないでください。安全装置が正常に作動しません。本機が停止せず、ひかれ・挟まれなどによる死亡事故を引き起こすおそれがあります。

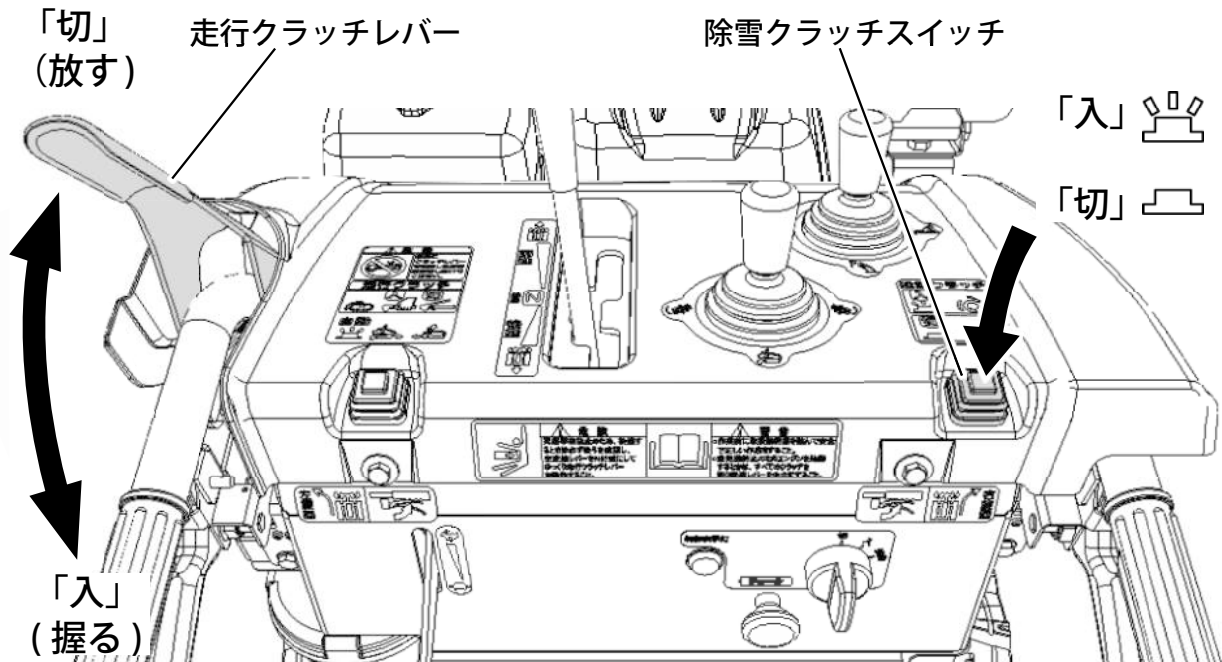
⚠ 警告

主変速レバーが「N」(中立)位置付近になっていることを確認してから、走行クラッチレバーをゆっくりと操作してください。本機が急発進して重傷を負うおそれがあります。

※走行クラッチレバーと除雪クラッチスイッチには連動機構が装備されています。(P.27参照)

⑦ 除雪クラッチスイッチ

オーガとブロワを回転・停止させるときに操作します。除雪クラッチスイッチを押すことによりオーガとブロワの回転・停止の切替えを行います。



[参考]

除雪クラッチスイッチと走行クラッチレバーには連動機構が装備されています。

- ・ 走行クラッチレバーを握った状態（「入」位置にした状態）で、除雪クラッチスイッチを「入」にする（点滅し始めるまで除雪クラッチスイッチを押し続ける）と除雪クラッチが入り、除雪と走行ができます。（除雪クラッチが「入」の状態では除雪クラッチスイッチが点灯します）この状態から走行クラッチレバーを放すと（「切」位置にすると）、除雪クラッチと走行クラッチの両方が切れます。
- ・ 除雪クラッチのみを「切」にしたい場合は、もう一度除雪クラッチスイッチを押してください。点灯中の除雪クラッチスイッチが「点滅」→「消灯」し、オーガとブロワは停止します。

[重要]

除雪クラッチスイッチを、7秒以上押し続けても点灯しない場合は、除雪クラッチ部に異常がある可能性があります。

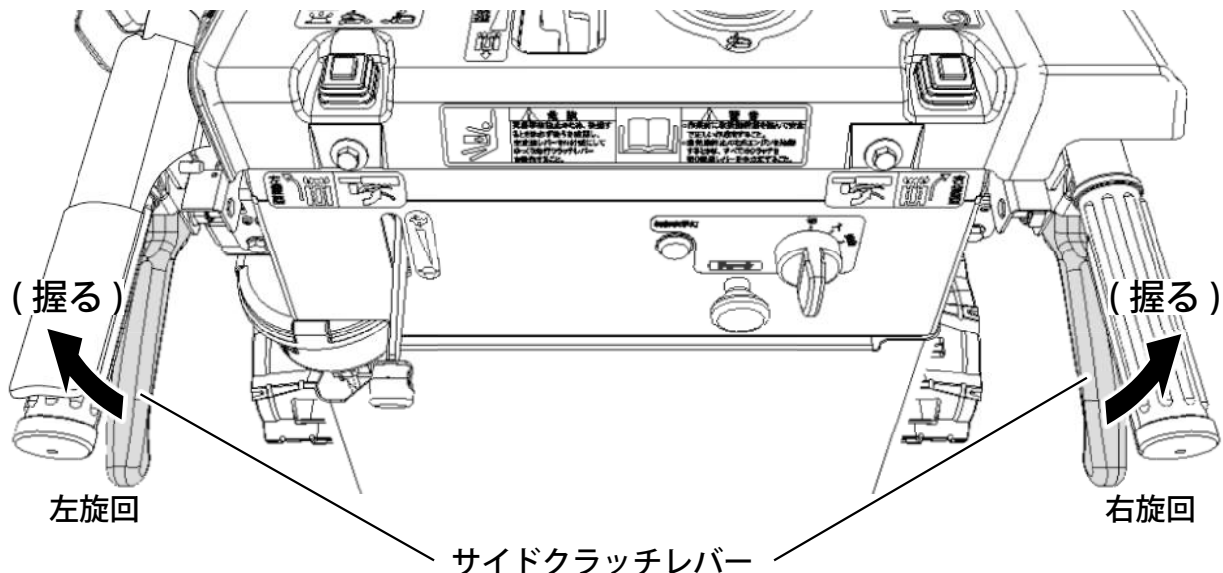
お買い上げいただいた販売店へ修理を依頼してください。

⑧ サイドクラッチレバー

除雪機の進行方向を変えるときに操作します。
右旋回・・・右側のサイドクラッチレバーを握る。
左旋回・・・左側のサイドクラッチレバーを握る。

[参考]

左右のサイドクラッチレバーを同時に握り続けるとエンジンは停止します。

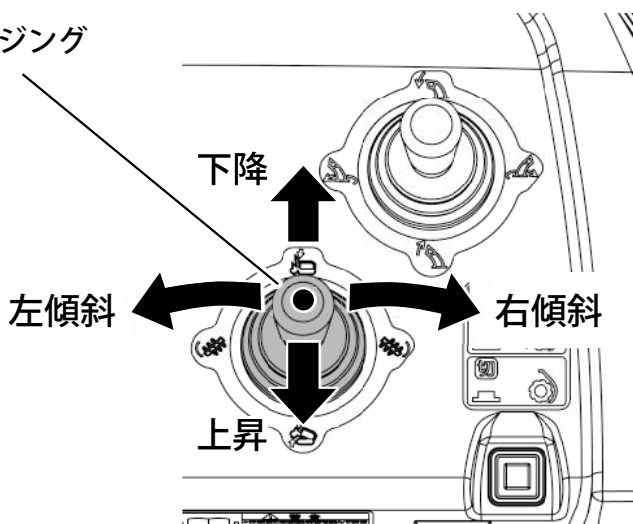


⑨ オーガハウジング調節レバー

オーガハウジング（除雪部）の高さ、左右の傾きを調節するときに操作します。レバーから手を放すと、その位置でオーガハウジングが止まります。

オーガハウジング調節レバーは、エンジンが運転しているときに操作してください。エンジン停止中に操作すると、バッテリーを消耗します。

オーガハウジング
調節レバー



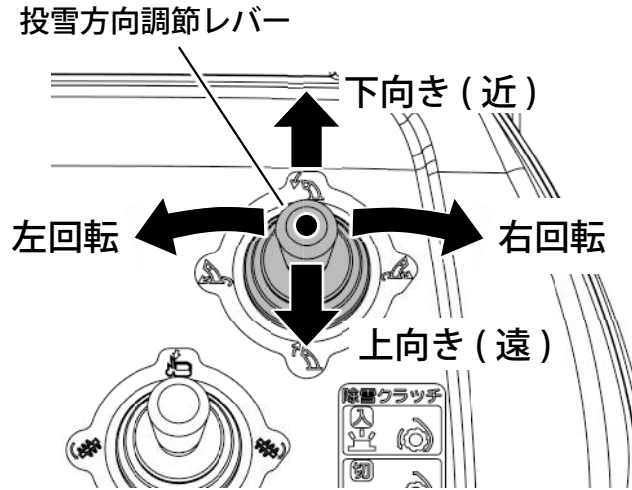
[重要]

左右の傾き調節の反転操作は1秒ほど間をおいて行ってください。
ひんぱんに操作するとモーターが過熱し、破損するおそれがあります。

⑩ 投雪方向調節レバー

投雪の距離と方向を調節するときに操作します。

投雪方向調節レバーは、エンジンが運転しているときに操作します。エンジン停止中に操作すると、バッテリーを消耗します。



⑪ リフトモード切替スイッチ

除雪作業中のオーガハウジング（除雪部）のリフトモードを切替えます。除雪クラッチスイッチ「入」時にリフトモード切替スイッチを押して、自動モード・手動モードを切替えます。

「入」（自動モード）スイッチ点灯、自動動作中はスイッチ点滅

後進時：オーガハウジングが自動的に最高位置まで上昇し、雪のひきずりを軽減します。

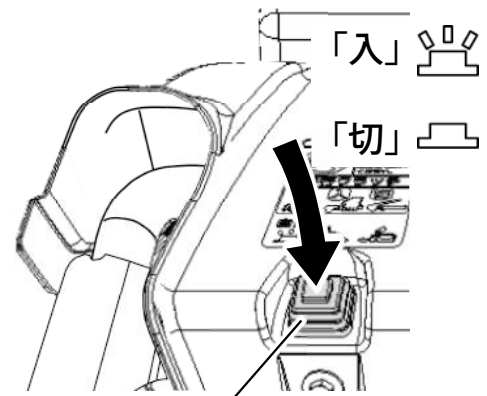
前進時：オーガハウジングが自動上昇前の高さ付近まで自動的に降下します。

「切」（手動モード）スイッチ消灯

オーガハウジングの自動上昇や自動降下は動作しません。オーガハウジング調整レバーの操作のみで、オーガハウジングの昇降が可能です。

[参考]

自動モードでの動作中に、オーガハウジング調節レバー（P. 28参照）を操作すると、自動動作は停止し、手動操作が優先されます。



リフトモード切替スイッチ



除雪機の積み降ろしや急斜面の運転をするときは、リフトモード切替スイッチは手動モード（スイッチ消灯）で行ってください。

守らないと、機械のバランスを崩し、転倒・転落事故の原因になります。

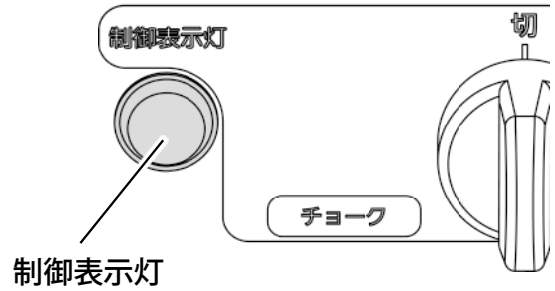
4章 各操作部のはたらき

⑫ 制御表示灯

エンジンスイッチを「入」位置にすると点灯します。エラーを検出すると点滅します。エンジンスイッチを一旦「切」位置にして、P.68の制御表示灯エラーコード一覧表を参照し対処してください。

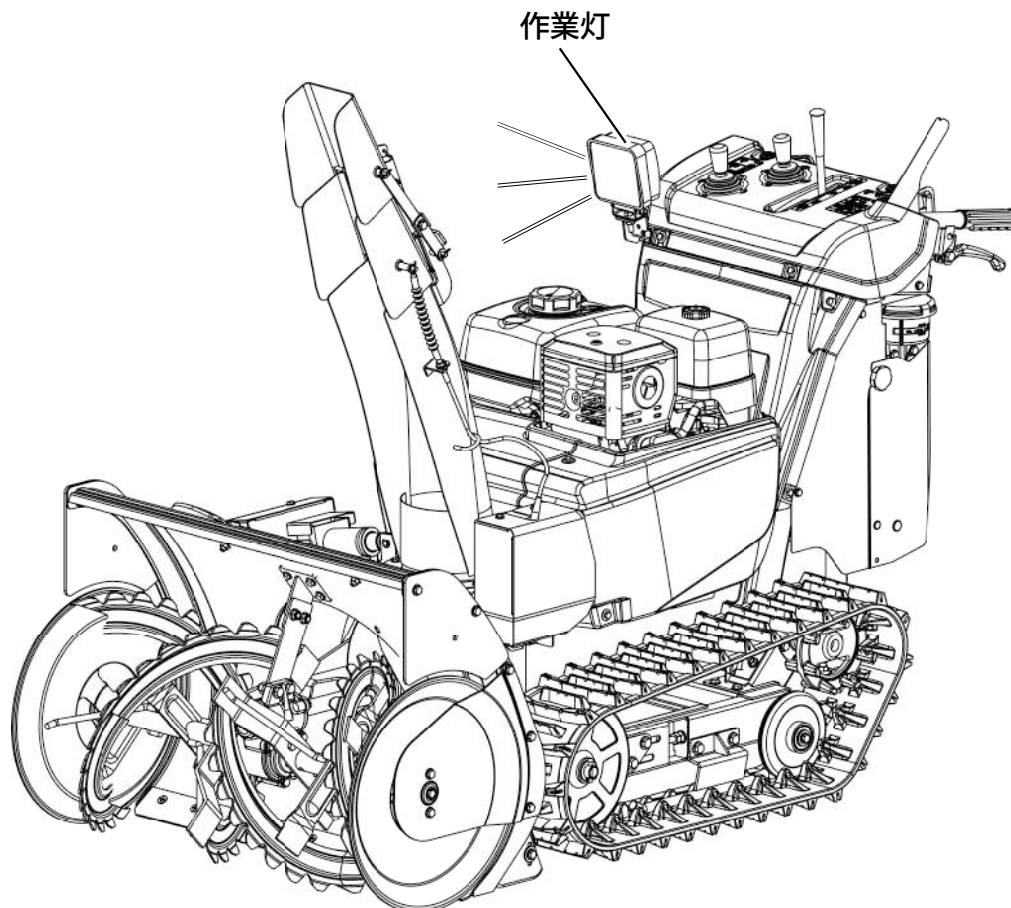
[重要]

対処を行った後もエラーが解消されない場合や、ひんぱんに点滅する場合は、お買上げいただいた販売店に修理を依頼してください。



⑬ 作業灯

エンジンスイッチを「入」位置にすると点灯し、エンジンスイッチを「切」位置にすると消灯します。



5章 運転前の準備・点検

快適で安全な作業をするためには、機械の状態をいつも最良にしておくことが大切です。運転前には、下記に定める始業点検を行ってください。

⚠ 危険

- ・燃料補給時は、くわえタバコ等火気厳禁です。燃料補給後は燃料タンクキャップを確実にしめ、燃料タンクや燃料パイプ等からの燃料もれがないか点検をしてください。守らないと火災事故の原因になります。

⚠ 警告

- ・点検・整備を行うときは、必ず平坦なところで除雪部を接地し、エンジンを停止してから行ってください。
- ・燃料は給油口の口元まで入れず、所定の給油限界位置を超えないように補給してください。入れすぎると燃料が燃料タンクキャップからにじみ出ることがあり危険です。
- ・燃料はこぼさないように補給してください。万一こぼれたときは、布などで完全に拭き取り、火災、環境に注意し、処分してください。

⚠ 注意

- ・エンジンが熱い間は、点検・整備等は絶対にしないでください。火傷をするおそれがあります。
- ・点検・整備などで取外したカバー類は、必ず取付けてください。機械に巻き込まれて傷害事故を引き起こすおそれがあります。

始業点検一覧表

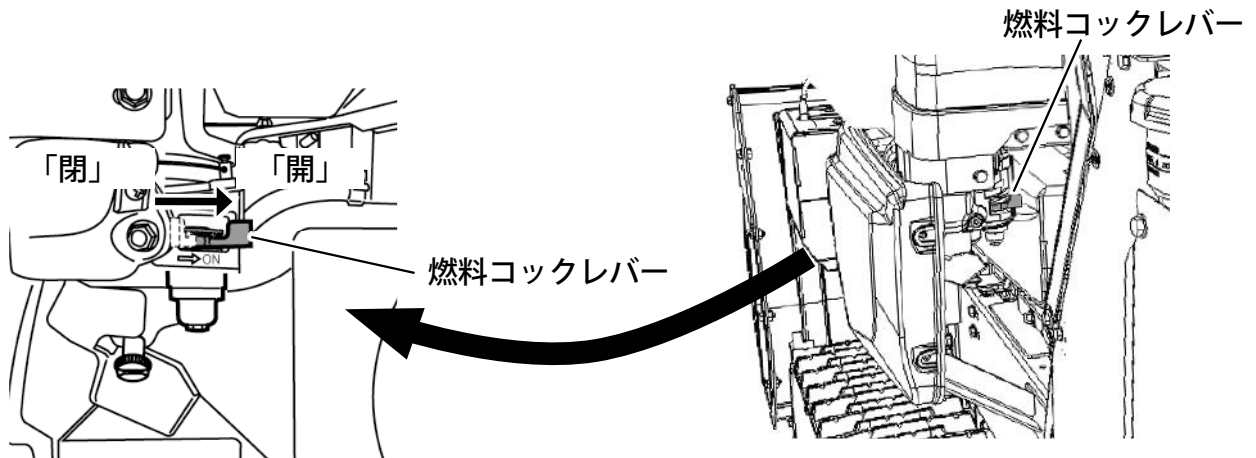
(点検時に異常を感じたときは、お買い上げいただいた販売店に整備・修理を依頼してください。)

点検・調整箇所	種類・規定量・サイズ	内容	参照ページ
走行クラッチレバーと除雪クラッチスイッチの連動	—	点検	27
燃料	無鉛レギュラーガソリン 6.1リットル	点検・補給	53
エンジンオイル	SAE 5W-30 SE級以上 1.1リットル (給油口の口元までであること)	点検・補給	54
HSTオイル	SAE 5W-30 SE級以上 1.95リットル (オイルタンクの上限と下限の間にあること)	点検	55
クローラー	—	点検	57
オーガ	—	点検・交換	58
シャーボルト	コガタ M8×25 (プロワ・オーガ)	点検	58
ソリ	—	点検・補充電	59
バッテリー	40B19R	点検	60
電気部品・配線コード	—	点検	63
燃料もれ・油もれ	—	点検	63
エンジン周辺	—	点検	63
各部の締付け	—	点検	63
各部の作動状態	—	点検	63
前回作業時の異常箇所	—	点検	63

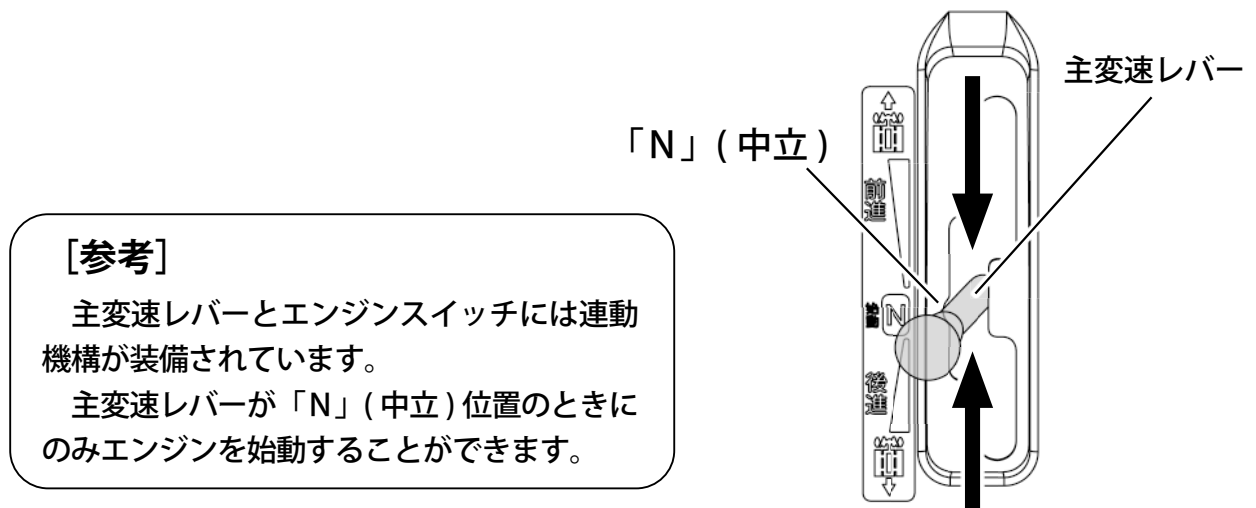
6章 運転・移動のしかた

1. エンジン始動のしかた

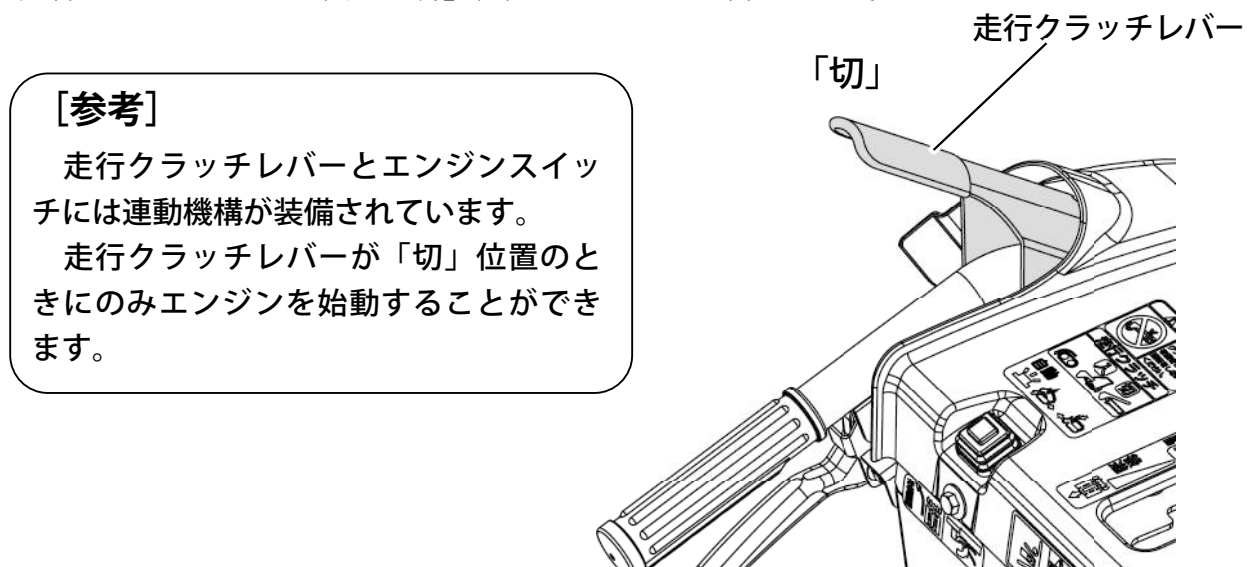
1) 燃料コックレバーが閉じている場合は開きます。



2) 主変速レバーが「N」(中立)位置にあることを確認します。



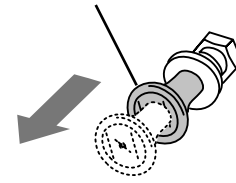
3) 走行クラッチレバーが図の「切」位置にあることを確認します。



6章 運転・移動のしかた

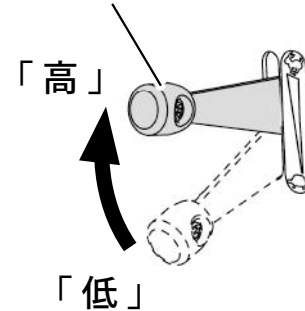
- 4) 寒いときや、エンジンがかかりにくいときは
チョークレバーを引いた状態にします。

チョークレバー



- 5) エンジン回転調節レバーを矢印の方向に少し
動かします。

エンジン回転調節レバー

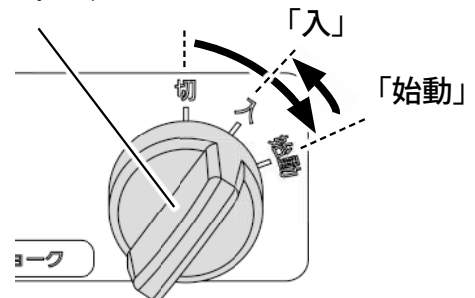


- 6) エンジンスイッチ（キー）を回します。
エンジンスイッチ（キー）を「始動」位置にすると、セルモーターが作動します。
エンジン始動した後は、キーから手を放します。
（キーは「入」位置まで自動的に戻ります。）

【重要】

セルモーターを作動させて5秒以内に
エンジンが始動しないときは、10秒
ほど間をおいてから再度、エンジン始
動の操作をしてください。

エンジンスイッチ
（キー）

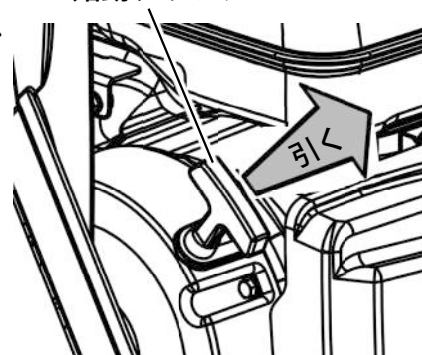


《始動グリップを使用する場合》

エンジンスイッチ（キー）を「入」位置まで回し、
始動グリップを勢いよく引きます。

- 7) チョークレバーを引いた状態にしてある場合は、
エンジン回転が安定することを確認しながら
徐々に戻します。
- 8) エンジン始動後は、負荷をかけずに暖機運転を
行なってください。（P. 34参照）

始動グリップ



【重要】

エンジン始動後、チョークレバーは必ず戻した状態にしてください。引いた状態のまま
使用すると、エンジン不調の原因となります。

2. 暖機運転のしかた

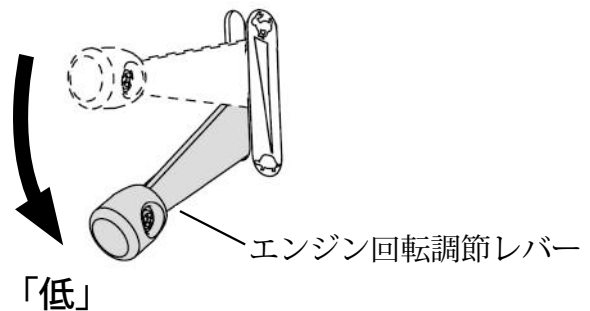
⚠ 危険

エンジンの暖機運転は、しめきった屋内では行わないでください。やむをえず屋内で暖機運転する場合は、十分に換気をしてください。排気ガスによる中毒を起こし、死亡事故にいたるおそれがあります。

⚠ 注意

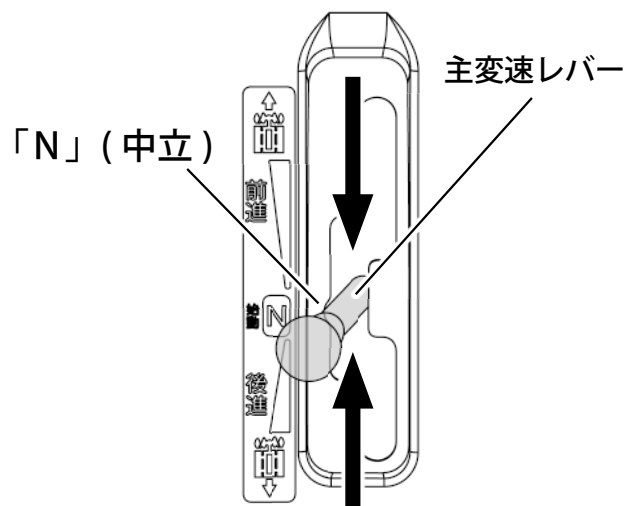
暖機運転中は、オーガハウジングを地面に接地させてください。機械が動き出して、傷害事故の原因となります。

- 1) エンジン回転調節レバーを「低」位置に戻し、エンジン回転を下げます。



- 2) 負荷をかけずに暖機運転を行います。その際、以下の方法で油圧走行駆動装置（H S T）の暖機を同時に行います。

- ① 主変速レバーが「N」（中立）位置にあることを確認します。



[重要]

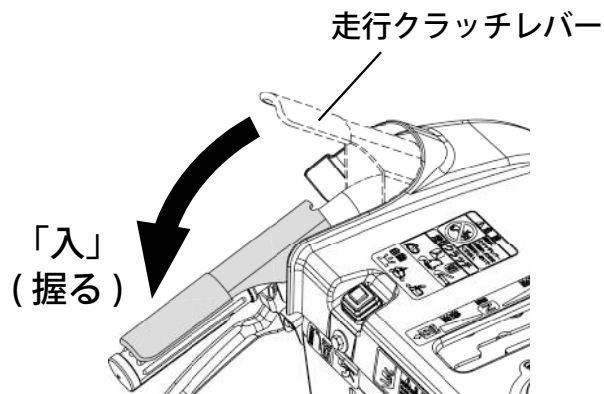
エンジンが暖まるまで、多少スモーク（黒煙）が出ることがあります。エンジンが暖まるまでは無理な負荷をかけないでください。

6章 運転・移動のしかた

② 約1分間、走行クラッチレバーを握り続けます。

[重要]

このとき、機械が動き出さないことを確認しながら、ゆっくりと走行クラッチレバーを握ってください。

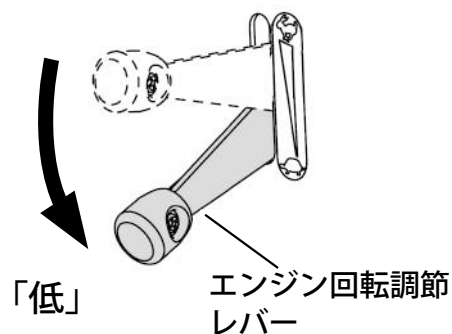


3. エンジン停止のしかた

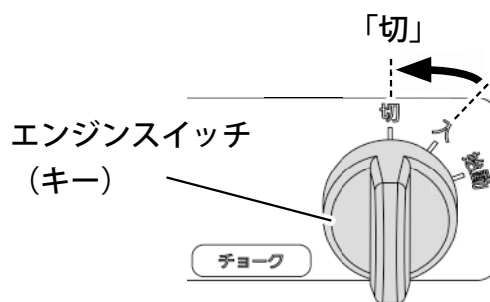
⚠ 注意

エンジンを停止しても、エンジンやマフラーなどの高温部分にはすぐに触れないでください。守らないと、火傷をするおそれがあります。

1) エンジン回転調節レバーを「低」位置にします。



2) エンジンスイッチ (キー) を「切」位置にします。
機械から離れるときは、エンジンスイッチ (キー) を抜いてください。



3) 燃料コックレバーを「閉」位置にします。



4. 発進のしかた

⚠ 危険

- ・クラッチレバーを改造したり、固定した状態で運転しないでください。安全装置が正常に作動しません。本機が停止せず、ひかれ・挟まれなどによる死亡事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 注意

下記の項目に十分に注意をしてください。

守らないと、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

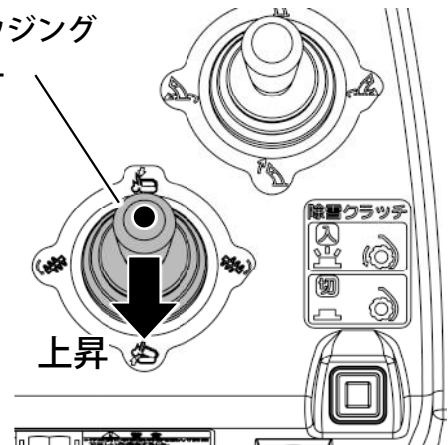
- ・発進するときは、周囲の安全を確認してください。
- ・周囲に人がいる場合は、必ず発進の合図を出してください。
- ・発進はゆっくりと行ってください。急発進をすると、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- ・後進するときは、後方の障害物や足もとの安全を確認しながら、低速で行ってください。
- ・走行中はわき見運転や手放し運転をしないでください。
- ・走行中は、雪に隠れた坂道、凹凸道、カーブ、路肩などに十分に注意してください。
- ・緊急時以外は、走行中に走行クラッチレバーから手を放さないでください。守らないと急停止による事故を引き起こすおそれがあります。

[重要]

外気温が -10°C 以下のときは、暖機運転を十分に行い、移動の際は低速（作業速度）で走行してください。約10分間の低速走行や除雪作業により走行駆動装置は十分に暖まります。

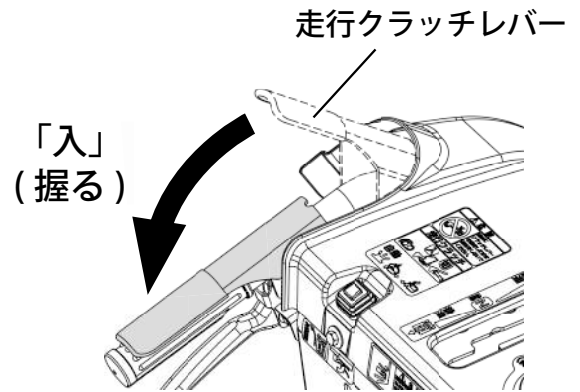
- 1) エンジンを始動します。（P.32参照）
- 2) オーガハウジング調節レバーを操作し、オーガハウジングを地面より浮かせます。

オーガハウジング
調節レバー

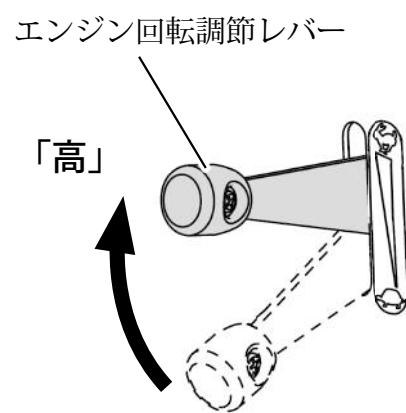


6章 運転・移動のしかた

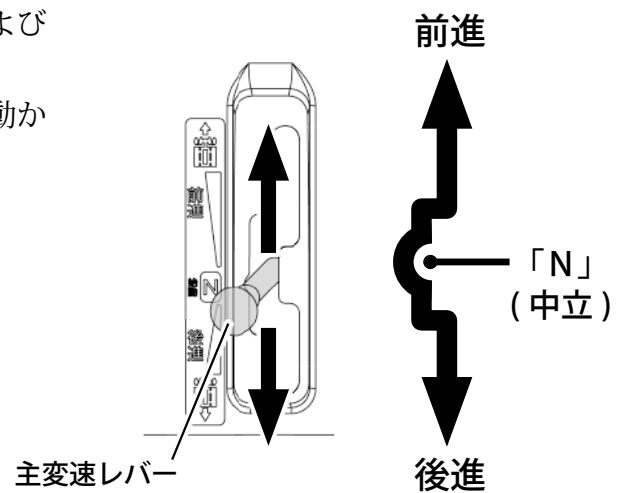
3) 走行クラッチレバーを「入」位置にします。



4) エンジン回転調節レバーを「高」位置にします。

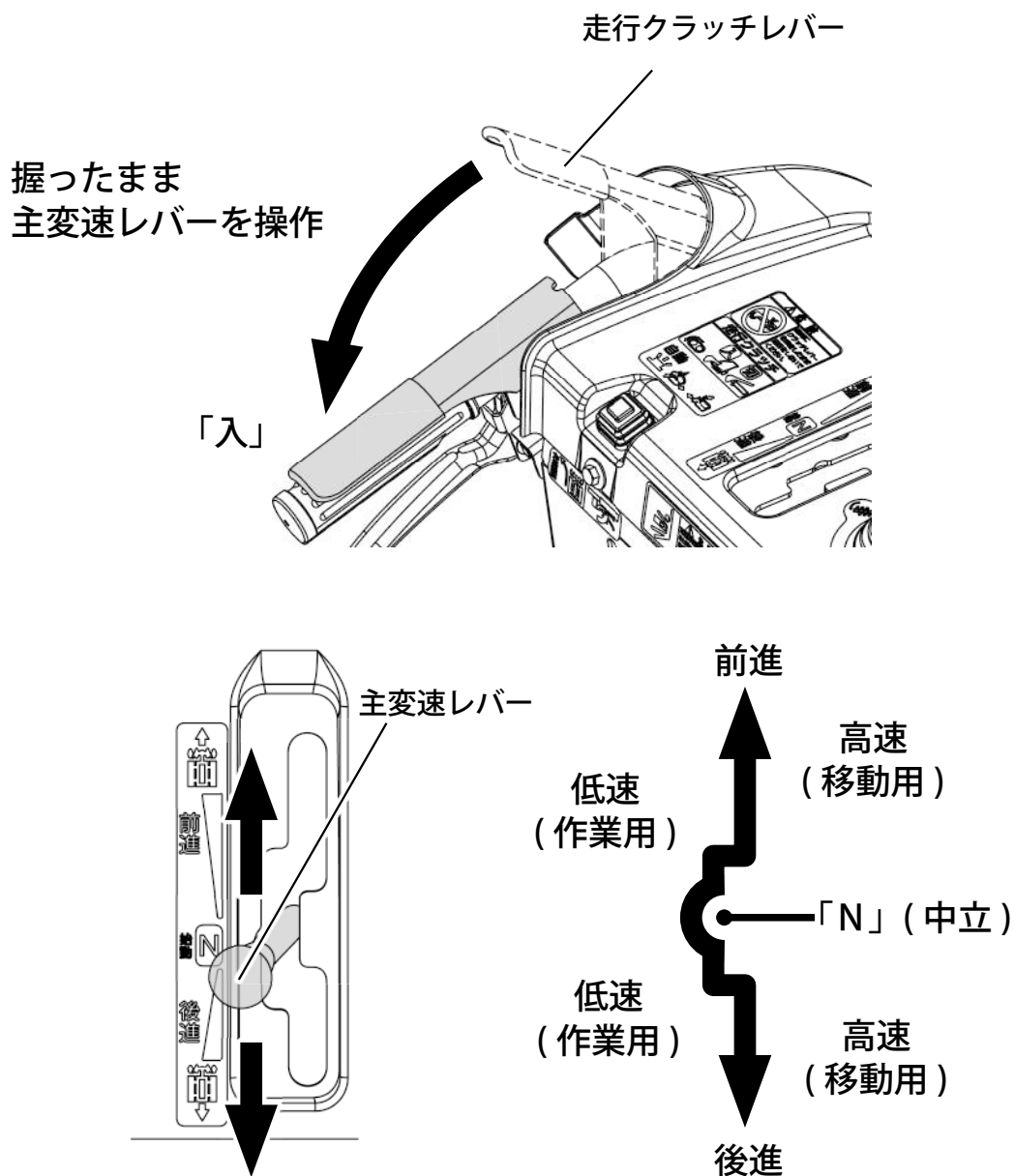


5) 主変速レバーの位置で前進または後進、および走行速度を決めます。
主変速レバーを任意の位置までゆっくりと動かします。



5. 変速のしかた

- 走行中の変速は、走行クラッチレバーを握ったまま主変速レバーで操作します。速度は無段階に調節ができます。
- 「前進」「後進」の切替えは、走行クラッチレバーを握ったまま主変速レバーを「N」(中立)位置に戻し、機械が完全に停止してから行います。



[重要]

前後進の切替えはゆっくりと行なってください。
停止していない状態で切替え操作をすると、トランスミッションの破損の原因となります。

6. 旋回のしかた



- ・高速走行中の急旋回は危険です。必ず速度を落としてから行ってください。守らないと機械の転倒・暴走などの事故の原因となります。
- ・急な坂道での旋回操作はしないでください。守らないと機械の転倒・暴走などの事故の原因となります。やむを得ないときは、横転に注意して、低速で緩やかな旋回の操作をしてください。

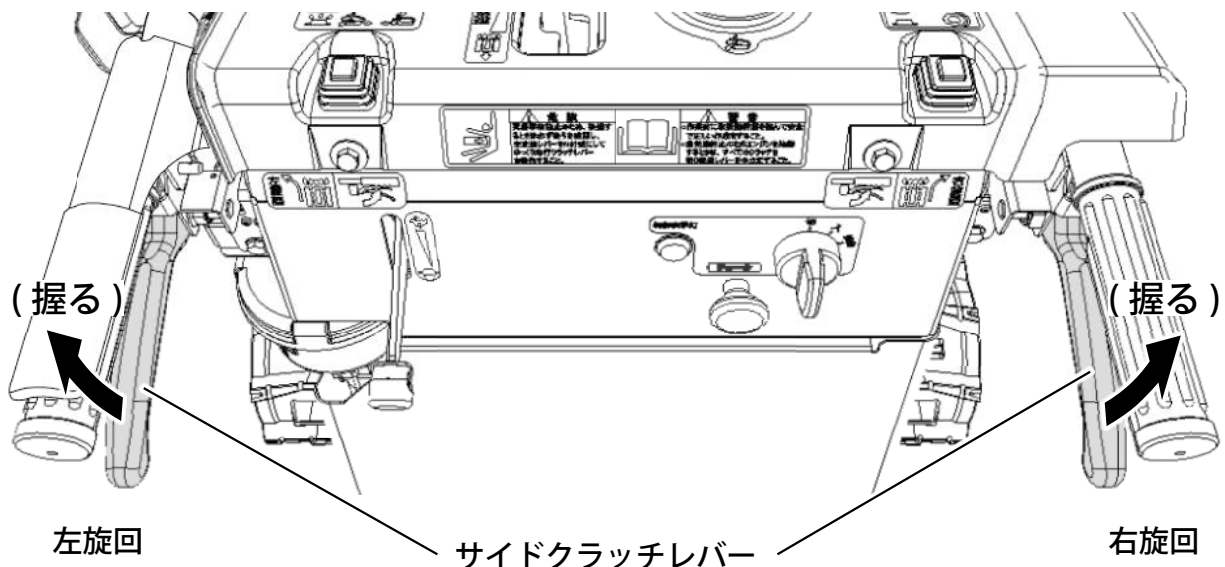
除雪機の進行方向を変えるときにサイドクラッチレバーを操作します。

右旋回・・・右側のサイドクラッチレバーを握る。

左旋回・・・左側のサイドクラッチレバーを握る。

[参考]

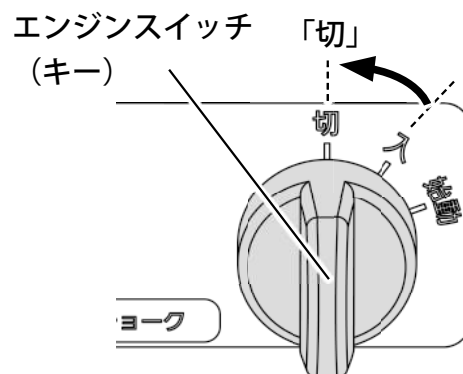
左右のサイドクラッチレバーを同時に握り続けるとエンジンは停止します。



7. 停車のしかた

<緊急にエンジンを停止し、停車する場合>

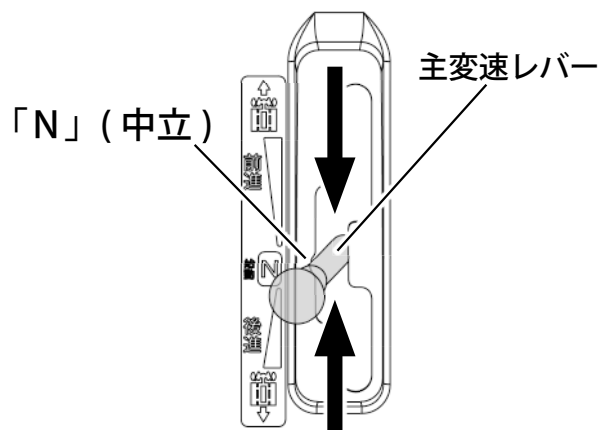
エンジンスイッチ (キー) を「切」位置にします。



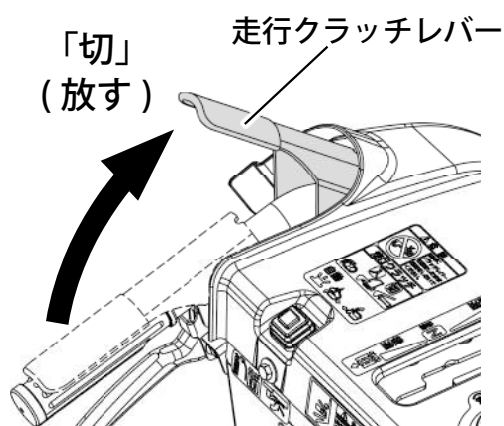
6章 運転・移動のしかた

<通常に停車する場合>

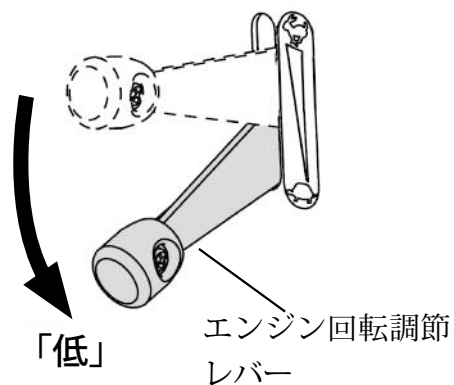
1) 主変速レバーを「N」(中立)位置にします。



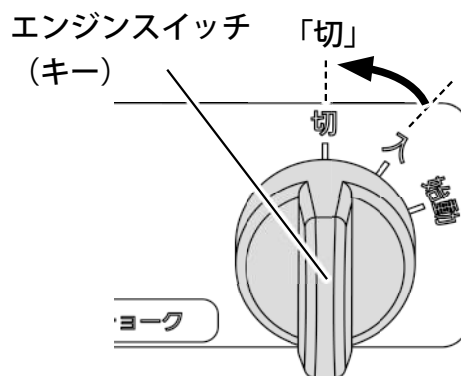
2) 走行クラッチレバーから手を放し「切」位置にします。(「切」位置にあることを確認します)



3) エンジン回転調節レバーを「低」位置にします。

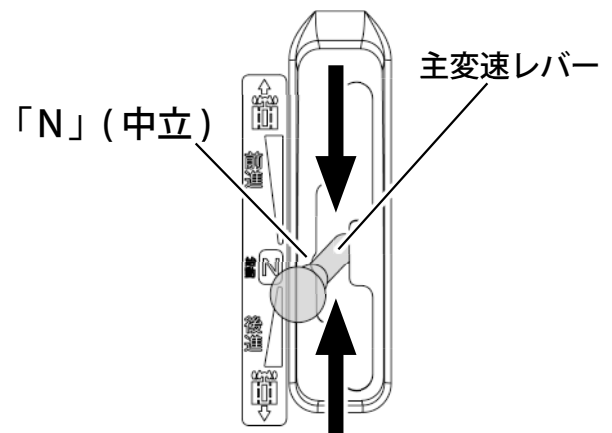


4) エンジンスイッチ(キー)を「切」位置にします。

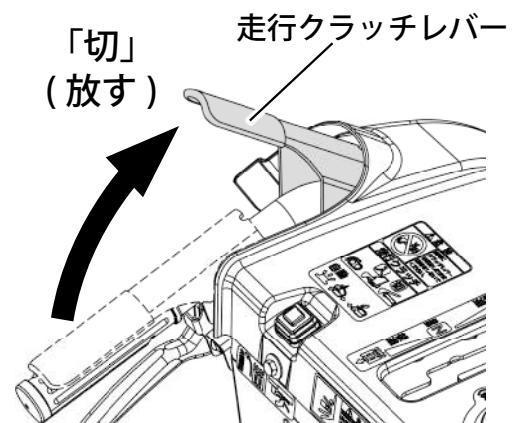


8. 駐車のしかた

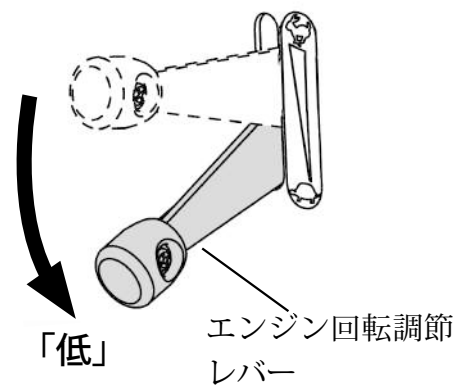
- 1) 平坦で安全な場所へ移動します。
- 2) 主変速レバーを「N」(中立)位置にします。



- 3) 走行クラッチレバーから手を放し「切」位置にします。
(「切」位置にあることを確認します)



- 4) エンジン回転調節レバーを「低」位置にします。

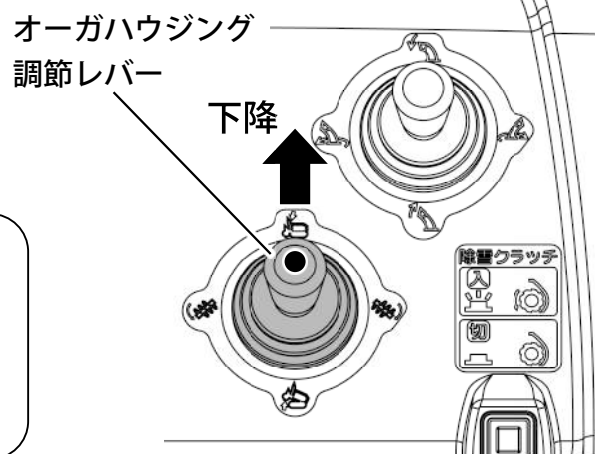


6章 運転・移動のしかた

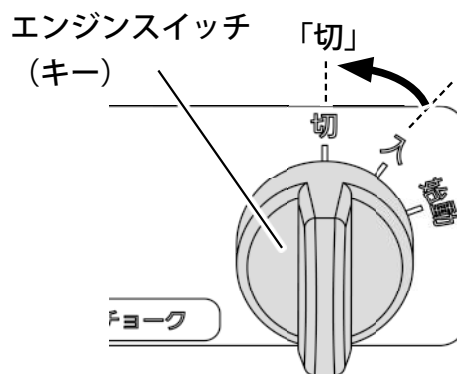
- 5) オーガハウジング調節レバーを操作して、オーガハウジングを完全に路面へ接地させます。

[参考]

オーガハウジングが接地した状態でさらに下降操作を続けると、クローラーが浮いた状態となるため、下降させすぎないようにしてください。



- 6) 1～2分間程無負荷運転をした後、エンジンスイッチ（キー）を「切」位置にします。（エンジン停止前に無負荷運転を行うことにより、エンジン部品の温度を下げて、エンジンを良い状態に保つことができます。）



- 7) 燃料コックレバーを「閉」位置にします。



9.トラック等での運搬のしかた



- ・積み降ろしをする場所は、平坦で安定した、交通などの危険のない場所を選んでください。守らないと、思わぬ事故の原因になります。
- ・積み降ろしに使用するトラックは、車止めなどで動かないように処置してください。守らないと、思わぬ事故の原因となります。
- ・アユミ板は基準に合ったものを使用してください。守らないと転落事故の原因になります。
- ・本機の前へは人を立ち入らせないでください。機械が不意に動いたときに、思わぬ事故をまねくおそれがあります。
- ・トラックの荷台へ積み込んだ機械は、オーガハウジングを荷台へ接地させ、十分に強度のあるロープで機体を荷台へ確実に固定してください。守らないと、転落事故の原因になります。
- ・輸送時は燃料もれ防止のため、燃料コックレバーを「閉」位置にしてください。守らないと、こぼれた燃料に引火し、火災をおこすおそれがあります。

<アユミ板について>

アユミ板は、下記の基準に合ったものを使用してください。

アユミ板の基準

強度：機械の重量に十分に耐えうる強度のあるもの

幅：機械のクローラー幅の1.2倍以上のもの

長さ：地面から荷台までの距離（高さ）の4倍以上の長さのあるもの
（積載時の傾斜が約14°以下）

表面：すべり止めのあるもの

形状：荷台に引っ掛けるためのフックのあるもの

<トラックの準備>

- 1) トラックは、平坦で安定した場所で、交通などの危険がなく、作業が十分に行える広さの場所に停車します。
- 2) トラックの変速レバーは、「P」または「1」・「R」位置に入れ、駐車ブレーキを掛けます。
- 3) タイヤに車止めを設置します。
- 4) トラックの荷台にアユミ板のフックを、段差ができないように確実に掛けます。



- ・トラックへ積み込むときは前進で、降りるときは後進で行なってください。守らないと、バランスを崩し、転落などの事故の原因となります。
- ・機械がアユミ板と荷台の継ぎ目を越える際に、急激に機械の姿勢が変わる場合があるため、最低速度で慎重に移動してください。守らないと、バランスを崩し、転倒・転落事故の原因となります。
- ・積み降ろしを行うときは、ハンドルグリップをしっかりと握り機械を保持して、オーガハウジングを浮かせた状態で行ってください。守らないと、機械のバランスを崩し、転倒・転落事故の原因となります。
- ・リフトモード切替スイッチは手動モード（スイッチ消灯）で行ってください。守らないと、機械のバランスを崩し、転倒・転落事故の原因となります。
- ・トラックへの積み降ろしの際は、アユミ板の上で進路変更をしなくても良いように進路を定め、低速で行ってください。主変速レバーを「N」(中立)位置にしたり、走行クラッチレバー、サイドクラッチレバーの操作をしたりしないでください。守らないと、転落などの事故をまねくおそれがあります。

<除雪機の積み込みかた>

- 1) オーガハウジング調節レバーを操作し、オーガハウジングを積み込み時にアユミ板に接触しない位置まで浮かせます。
- 2) アユミ板の上で進路変更をしなくてよいように機械の進行方向を定め、主変速レバーを「前進」位置にして慎重にアユミ板の上を走行します。アユミ板の上ではサイドクラッチの操作はしないでください。
- 3) 積み込み位置へ到達したら、P. 41「8. 駐車のかた」を参照し、駐車します。燃料もれ防止のため、輸送時は燃料コックレバーを「閉」位置にします。
- 4) シャーシなどのしっかりした部分に十分に強度のあるロープを掛けて、機械を確実に固定します。

<除雪機の降ろしかた>

- 1) 機械を固定しているロープを取外します。
- 2) オーガハウジング調節レバーを操作し、オーガハウジングを積み降ろし時にアユミ板に接触しない位置まで浮かせます。
- 3) 主変速レバーを「後進」位置にして慎重にアユミ板の上を走行します。アユミ板の上ではサイドクラッチの操作はしないでください。

7章 除雪作業のしかた

警告

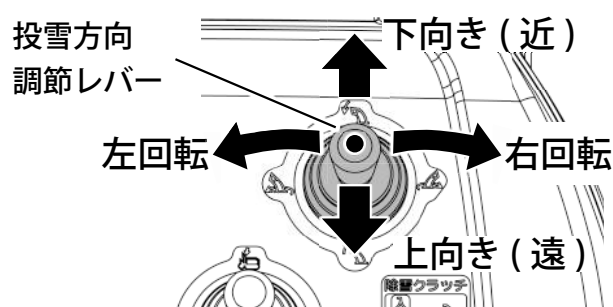
- ・傾斜地では、斜めに登ったり、斜面を横切る方向へ走行しないでください。横スベリや転倒のおそれがあります。
- ・急な坂道での除雪作業はしないでください。転倒やスリップによる事故のおそれがあります。
- ・機械の回転部、可動部は、注意をおこたったり取扱いを誤ると大変危険です。除雪作業にあたっては、安全のため次の要領で行ってください。

[重要]

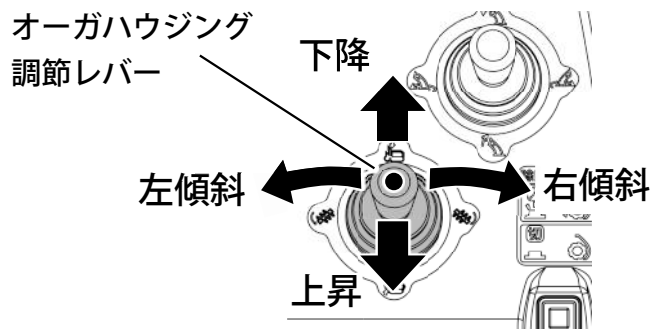
エンジンを18度以上傾けたまま連続運転するとエンジン故障のおそれがあります。急な坂道での運転はしないでください。

1. 発進の要領

- 1) エンジンを始動します。(P.32参照)
- 2) 投雪方向調節レバーを操作し、投雪方向と距離を決めます。



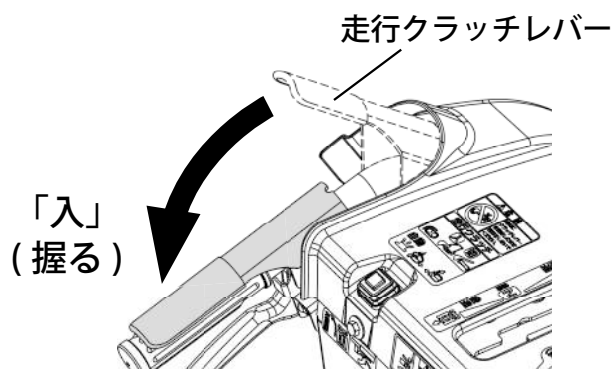
- 3) オーガハウジング調節レバーを操作し、除雪高さを決めます。



- 4) 走行クラッチレバーを「入」位置にします。

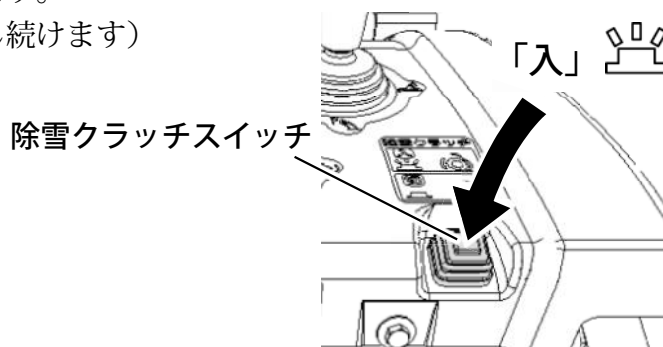
[参考]

各クラッチレバーの「入」位置への操作は、エンジン回転調節レバーを「低」位置にして行ってください。

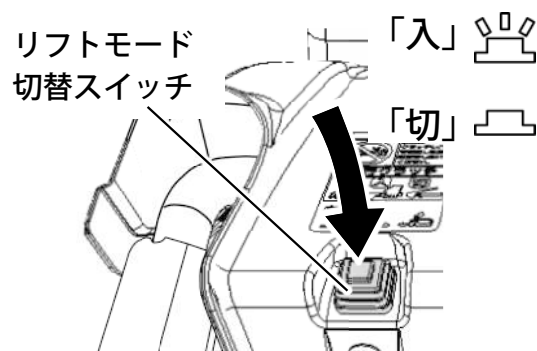


7章 除雪作業のしかた

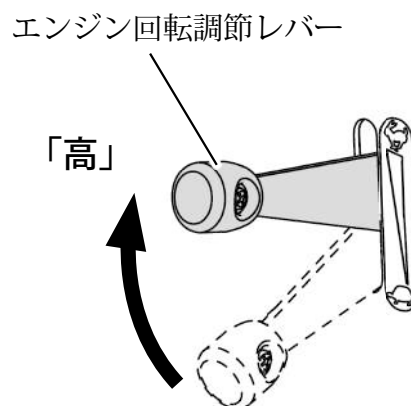
- 5) 除雪クラッチスイッチを「入」にします。
(スイッチが点滅し始めるまで押し続けます)



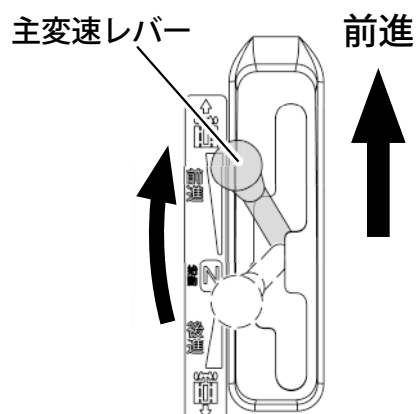
- 6) 必要に応じて、リフトモード切替スイッチを
自動モード (スイッチ点灯) に切替えます。



- 7) エンジン回転調節レバーを「高」位置にします。



- 8) 雪質、積雪量にあった車速となるように、
主変速レバーの位置を調節します。



2. 除雪作業の要領

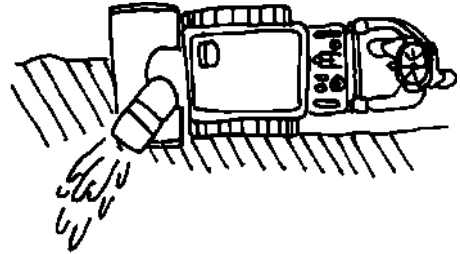
除雪作業は、エンジン回転を落とさずに行うことが重要です。雪による過負荷をさけるため、「低速」の範囲内で主変速レバーを操作します。

速度を落としてもエンジン回転が低下する場合は、次の方法を参考にして除雪作業を行います。

●除雪幅を狭めて除雪

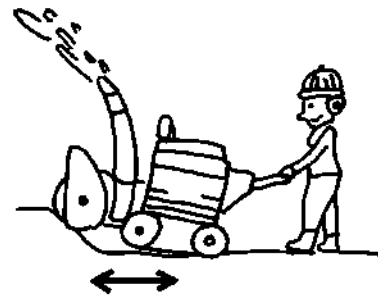
深い雪や、固くなった雪の場合は、速度を落として除雪します。

また、このようなときは、除雪部の全幅で除雪をせず、除雪部にかかる雪幅を狭めて除雪します。



●前後進除雪

固くなった雪などに除雪部が乗り上がるようなときには、前・後進を繰り返して除雪します。



●断続的除雪

深い雪や、重い雪の除雪作業時にエンジン回転が低下するときは、断続的に除雪を行います。

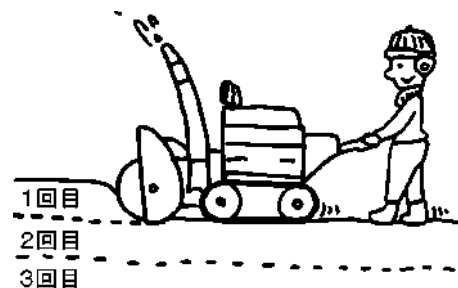
- 1) エンジン回転が回復するまで主変速レバーを「N」(中立)位置付近に戻し、前進を中断します。
- 2) 除雪部の雪がなくなり、エンジン回転が回復したら、主変速レバーを操作し、前進します。
- 3) 再びエンジン回転が低下するときには、1)～2)を繰り返します。



除雪部の雪がなくなったら前進

●段切除雪

積雪量が多く、オーガハウジングよりも雪が深いときは、段階的に除雪します。



3. 雪づまりの防止とつまった雪の除去

! 危険

- ・オーガハウジング内部やシュータ内部につまった雪を除去するときは、エンジンを停止し、各回転部が完全に止まってから、必ず備え付けの雪かき棒を使って雪を取り除いてください。
- ・エンジン運転中のときは、オーガハウジング内部やシュータ内部へ、絶対に手足を入れないでください。機械に巻き込まれ重傷を負うおそれがあります。

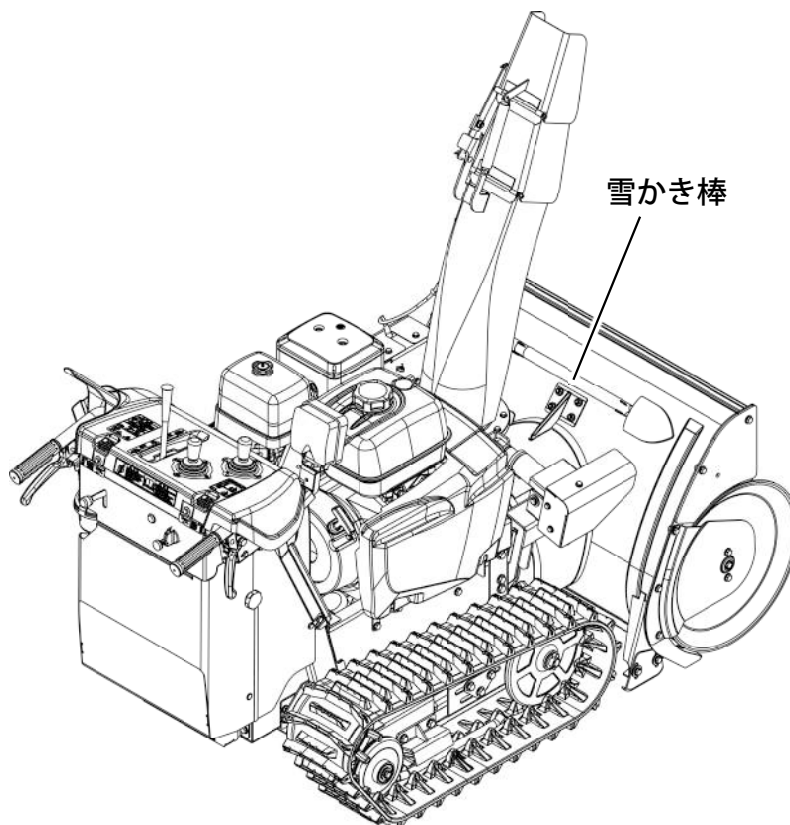
雪づまりを起こした場合、除雪部が雪を取り込めなくなり、除雪性能が著しく低下します。雪づまりを最小限に抑えるため、次の点に注意して作業を行ってください。

●べた雪(水気を多く含む雪)を除雪する場合

べた雪は雪づまりを起こしやすい傾向にあるため、断続的除雪の要領で除雪してください。(P. 47 参照)

●つまった雪の除去

- 1) エンジンを停止させ、オーガ、ブロウの回転が停止したことを確認します。
- 2) 備え付けの雪かき棒を使用し、つまった雪を除去します。
(雪かき棒はオーガハウジング上部に備え付けられています。)
- 3) 除去作業を終えた後は、雪かき棒を元の位置に取付けてください。



●除雪作業を終える場合

除雪部にたまっている雪をきれいに除去してから、エンジンを停止してください。

8章 定期点検

1. 定期点検

お客様ご自身で行っていただける点検・整備項目の他に、お買い上げいただいた販売店で定期的に実施していただく項目があります。機械の整備不良による事故を未然に防止するため、1シーズン毎に整備工場での定期点検・整備を受け、各部の安全を確保してください。

2. 点検・整備項目一覧表

○印は点検です。★の項目については適切な工具と整備技術を必要としますので、お買い上げいただいた販売店へ整備をお申し付けください。

点検・調整箇所	種類・規定量・サイズ	内容	20時間	100時間 または 1年毎	300時間 または 2年毎	参照ページ
燃料ろ過カップ	—	点検・清掃		○		53
エンジンオイル	SAE 5W-30 SE級以上 1.1リットル (給油口の口元までであること)	点検・交換	交換 (初回)	交換		54
点火プラグ	BPR4ES (NGK)	点検・清掃・交換		○	交換	56
クローラー	—	点検・★張り出し調整		○		57
オーガ	—	点検・★交換		必要に応じて		58
シャーボルト	コガタM8×25 (プロワ・オーガ)	点検・交換		必要に応じて		58
ソリ	—	点検・調整・交換		必要に応じて		59
バッテリー	40B19R	清掃		必要に応じて		60
ヒューズ	—	点検		必要に応じて		62
電気部品・配線コード	—	点検・★修理		○		63
プロワベルト	オレンジベルト LB40	★摩耗状況点検 ★張り状況点検・★調整		○		—
走行ベルト	オレンジベルト LA29	★摩耗状況点検 ★張り状況点検・★調整		○		—
プロワブレーキ	—	★点検・★調整 (エンジン回転数最高時で 除雪クラッチスイッチ「入」 →「切」の時、5秒以内に プロワが停止のこと)		○		—
走行クラッチ 除雪クラッチ	—	★点検・★調整		○		—
走行クラッチワイヤー 除雪クラッチワイヤー	—	点検・★調整		○		—
シュータワイヤー スロットルワイヤー	—	★点検・★調整		○		—
燃料タンク	—	★清掃		清掃		—
HSTオイルホース	—	点検・★交換		○		—
HSTオイル	SAE 5W-30 CD級以上 1.95リットル (オイルタンクの上限と下限の間 にあること)	点検・★交換		○ (200時間または2年毎)		—
オーガギヤケースオイル	ギヤオイル #90	★交換			交換	—
アイドル回転	—	★点検・★調整			○	—
吸入・排気弁のすきま	—	★点検・★清掃			○	—
燃焼室	—	★清掃		清掃 (1000時間運転毎)		—
燃料パイプ	—	★交換		交換 (2年毎、但し必要に応じて)		—

[重要]

走行・プロワベルトの寿命は、お客様のご使用状況により異なります。定期点検を受けられた機械でも、シーズン中に異常を感じたときは、直ちにお買い上げいただいた販売店へ整備を依頼してください。

[参考]

オイルの種類・量、ベルトのサイズ、シャーボルトのサイズは、リヤカバー裏に貼付けしてあるメンテナンスマークにも記載されています。

9章 点検・整備のしかた

警告

- 本機を洗う際には高圧洗浄機を使用しないでください。守らないと
 - a) 電気配線部被覆の損傷、断線により、火災をおこすおそれがあります。
 - b) 電装品への水の浸入により、故障するおそれがあります。
 - c) 機械が破損、損傷、故障するおそれがあります。
 - d) 塗装、メッキ、ラベルが剥がれるおそれがあります。
- 点検・整備を行うときは、必ず平坦なところで除雪部を接地し、エンジンを停止してから行ってください。

注意

- エンジンが熱い間は、点検・整備等は絶対にしないでください。火傷をするおそれがあります。
- 点検・整備などで取外したカバー類は、必ず取付けてください。機械に巻き込まれて傷害事故を引き起こすおそれがあります。

[重要]

- 廃棄物をみだりに捨てたり、焼却すると環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。
- 機械から廃液を抜く場合は、容器に受けてください。地面へのたれ流しや、排水溝、河川、湖沼、海洋などへの投棄はしないでください。
- 廃油、燃料、冷却水（不凍液）、冷媒、溶剤、フィルター、バッテリー、ゴム類、その他の有害物質を廃棄するときは、法令に従い適正に処理してください。
- 破棄方法が不明な場合は購入先または産業廃棄物処理業者にご相談の上処理してください。

※ 廃棄物処理法、水質汚濁防止法

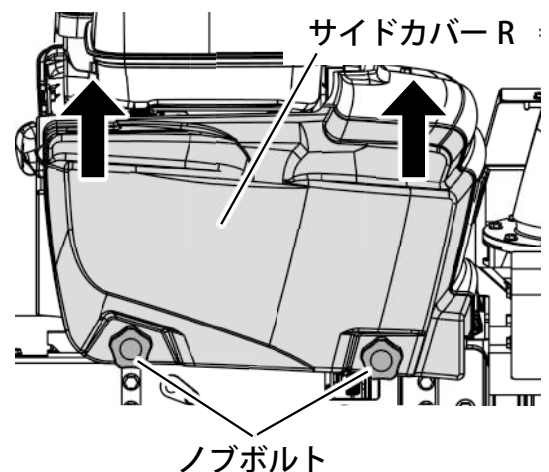
1. サイドカバー R の取外しかた・取付けかた

<サイドカバー R 取外しかた>

ノブボルト 2ヶ所をゆるめ、サイドカバー R を上に持ち上げて取外します。

<サイドカバー R 取付けかた>

取外しと逆の手順で行います。カバー内側のカバーフック 2ヶ所をフック受けに引っ掛けて、ノブボルトを確実に締付けます。



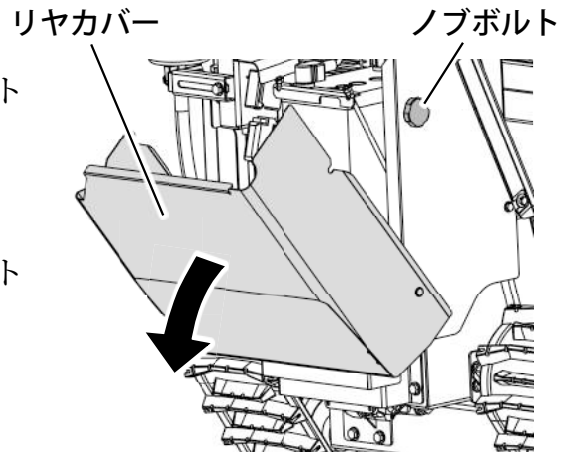
2. リヤカバーの開けかた・閉めかた

<リヤカバーの開けかた>

リヤカバーを押さえながら、左右のノブボルト2ヶ所をゆっくりと緩めます。

<リヤカバーの閉めかた>

リヤカバーを押さえながら、左右のノブボルトを確実に締付けます。



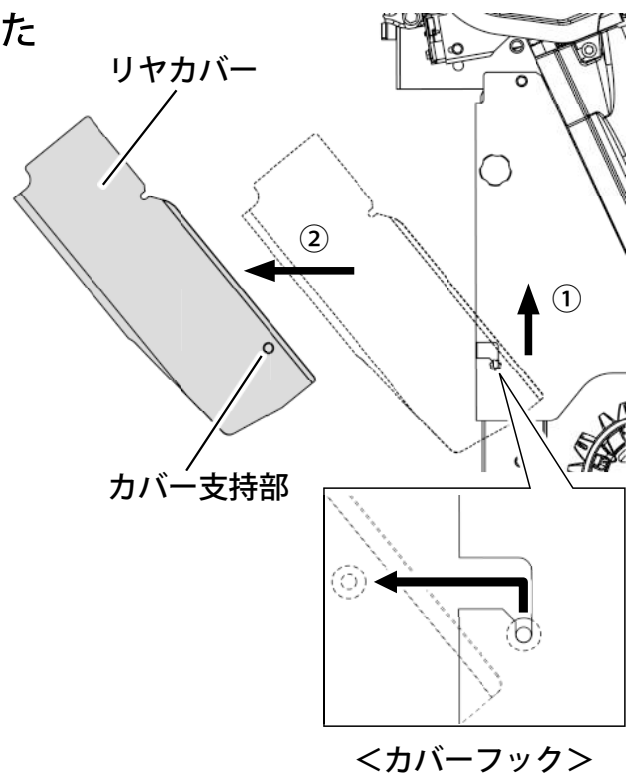
3. リヤカバーの取外しかた・取付けかた

<リヤカバーの取外しかた>

- 1) リヤカバーを開けます。
- 2) リヤカバー全体を、図の①②の順番に矢印の方向に動かし、左右両側のカバーフックからカバー支持部を外します。

<リヤカバーの取付けかた>

取付けは取外しと逆の手順で行います。左右両側のカバーフックにカバー支持部を確実に差し込みます。



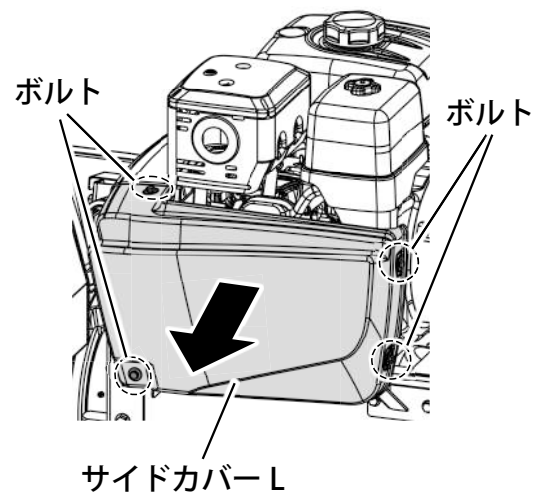
4. サイドカバーLの取外しかた・取付けかた

<サイドカバーLの取外し>

前後4ヶ所のボルトを取外し、サイドカバーLを取外します。

<サイドカバーLの取付け>

取付けは取外しと逆の手順で行います。ボルトの締付けは、カバーの穴にボルトの段付き部を入れてから行います。



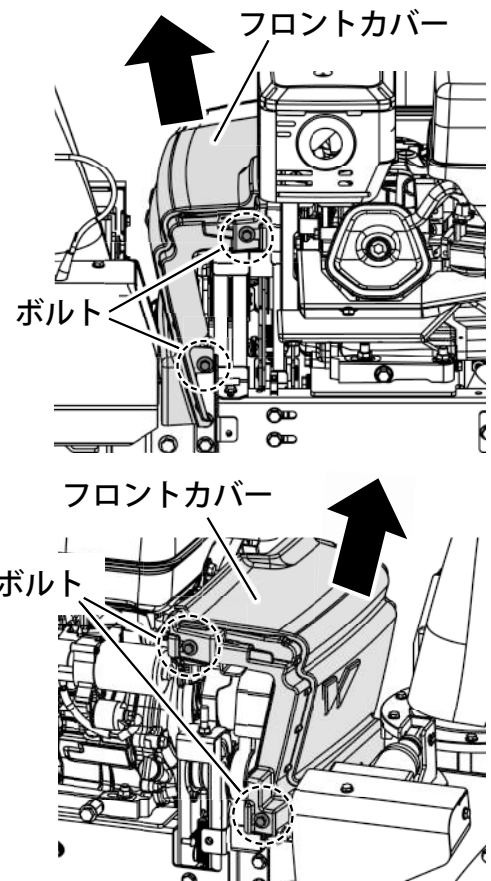
5. フロントカバーの取外しかた・取付けかた

<フロントカバーの取外し>

- 1) サイドカバーLを取外します。(P. 51参照)
- 2) サイドカバーRを取外します。(P. 50参照)
- 3) 左右各2ヶ所のボルトを取外し、フロントカバーを上を持ち上げて取外します。

<フロントカバーの取付け>

フロントカバーの取付けは取外しと逆の手順で行います。ボルトの締付けは、カバーの穴にボルトの段付き部を入れてから行います。



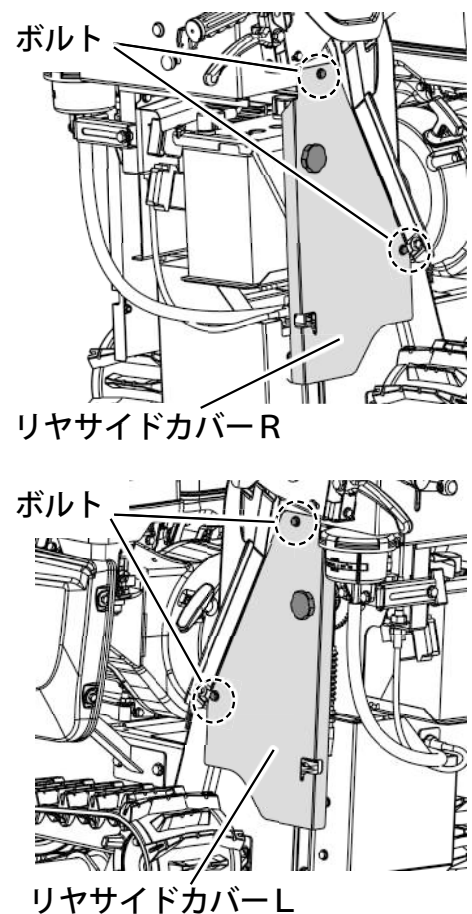
6. リヤサイドカバーL・Rの取外しかた・取付けかた

<リヤサイドカバーL・Rの取外し>

- 1) リヤカバーを取外します。(P. 51参照)
- 2) 左右各2ヶ所のボルトを取外し、リヤサイドカバーL・Rを取外します。

<リヤサイドカバーL・R取付け>

取付は取外しと逆の手順で行います。



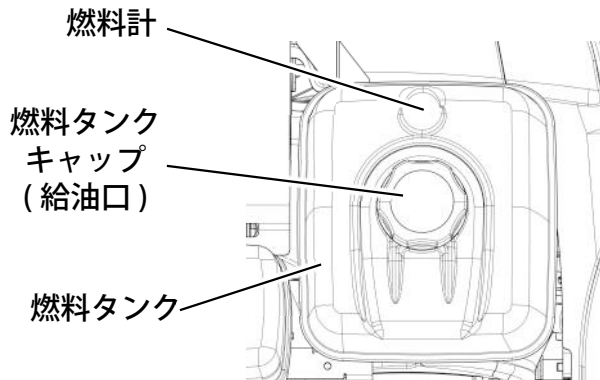
7. 燃料

<点検>

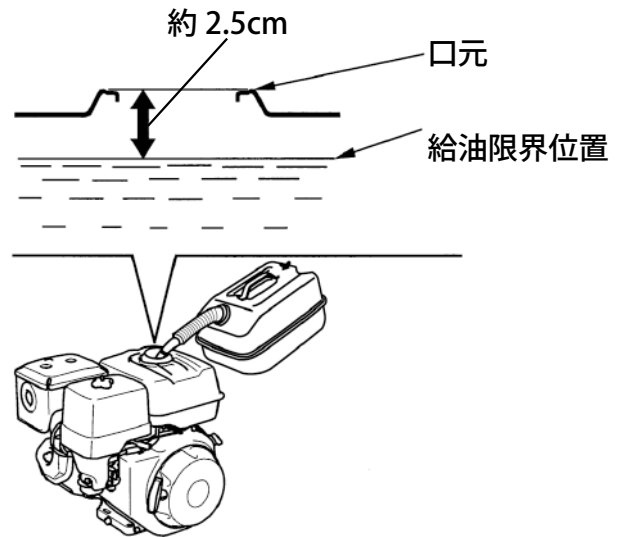
タンク上部の燃料計を見て残量を確認します。

<補給>

少ないときは、右図の給油限界位置を超えないように補給してください。



使用燃料・・・無鉛レギュラーガソリン
タンク容量・・・6.1リットル



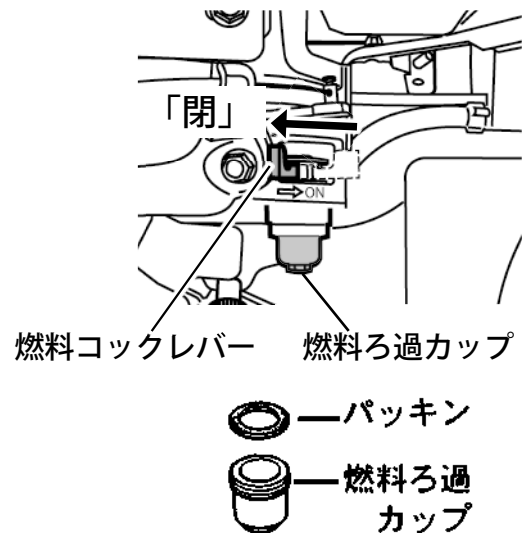
8. 燃料ろ過カップ

<清掃時期>

100時間運転毎または、1年毎のいずれか早い方

<清掃のしかた>

- 1) 燃料コックレバーを閉じます。
- 2) 燃料ろ過カップを取外します。
- 3) 燃料ろ過カップ、パッキンを洗油で清掃し、底にたまったゴミ・水を取除きます。
- 4) 清掃後、燃料漏れのないようパッキンを入れ燃料ろ過カップを確実に締付けてください。



9. エンジンオイル

<点検>

- 1) エンジンを水平な状態にします。
- 2) サイドカバーRを取外します。(P.50参照)
- 3) オイル給油キャップを取外して、給油口の口元までオイルがあるか点検します。
※オイルが著しく汚れている場合は、交換します。

<補給>

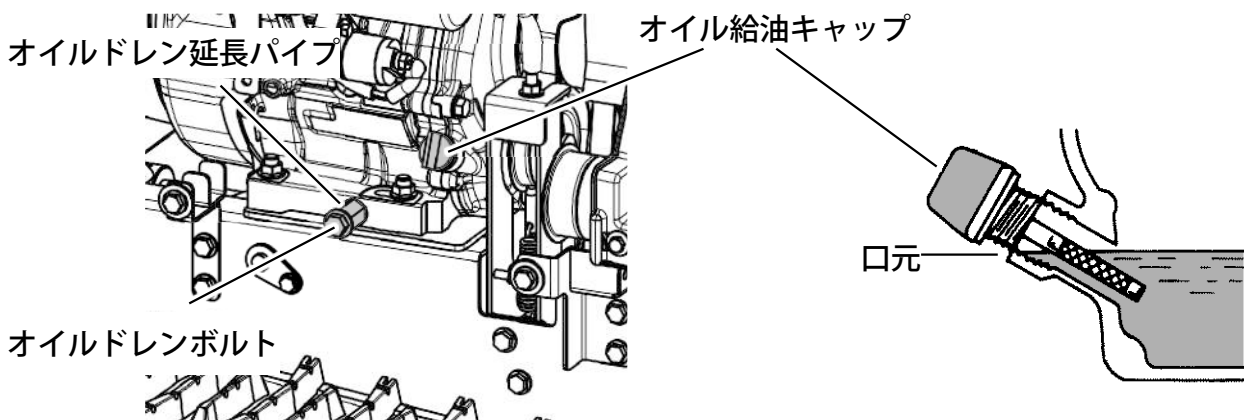
オイルが少ないときは、油面が給油口の口元になるまで新しいオイルを補給します。

<交換>

<必要工具> 幅14mmのコンビネーションレンチ又はメガネレンチ、幅17mmのスパナ

- 1) サイドカバーRを外取します。(P.50参照)
- 2) オイル給油キャップを外取します。
- 3) オイルドレン延長パイプを幅17mmのスパナでおさえながら、オイルドレンボルトをゆるめ、取外してオイルを容器に受けてください。
- 4) オイルが抜けたら、新品のシーリングワッシャーを組み付け、オイルドレンボルトを確実に締めます。
- 5) 新しいオイルを給油口の口元まで給油します。
- 6) 給油後、キャップを確実に閉めます。

シーリングワッシャー
品番：90601-ZE1-000
品名：ワッシャー, ドレンプラグ 10.2MM



<サイドカバーR内部>

推奨オイル・・・4サイクルガソリンエンジンオイル

SAE 5W-30 SE級以上

オイル容量・・・1.1リットル(給油口の口元までであること)

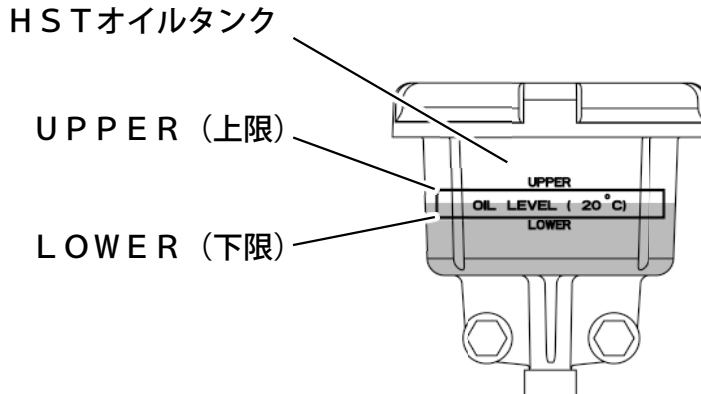
[重要]

- ・エンジンオイルの量の点検は、エンジン始動前かエンジンが冷えているときに行ってください。
- ・エンジンオイルの量を点検するときは、エンジンを水平な状態にしてください。エンジンが傾いていると、正確なオイル量を確認できません。
- ・シーリングワッシャーは再利用しないでください。オイル漏れの原因となります。

10. HST（変速機）オイル

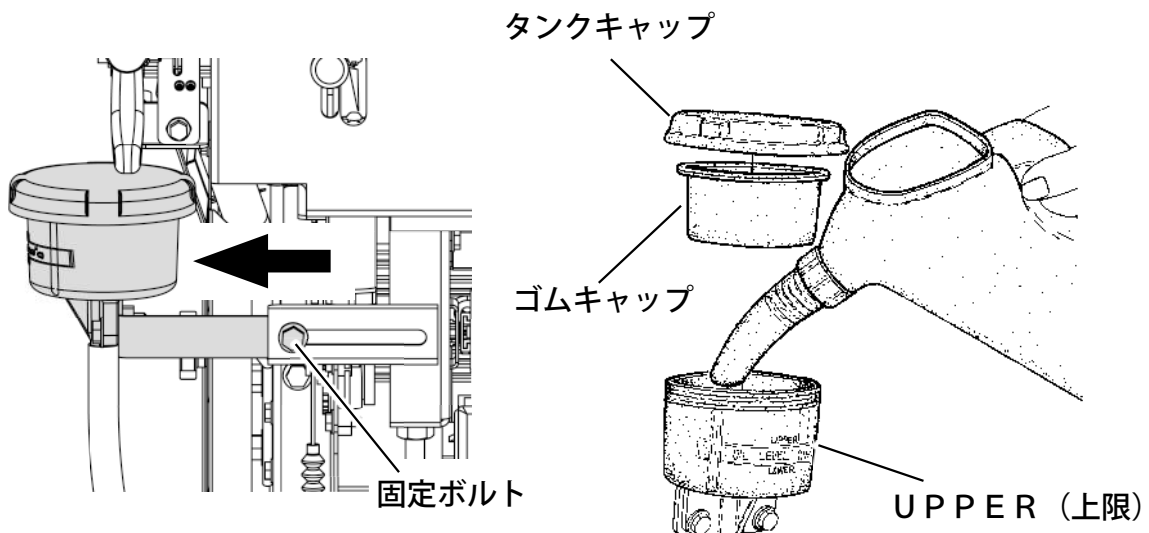
<点検>

HSTオイルの点検は本機を水平な状態にして、本機が冷えているときに行います。
HSTオイルの液面がオイルタンクのUPPER（上限）とLOWER（下限）の間にあるか点検します。



<補給>

- 1) リヤカバーを開けます。（P. 51 参照）
- 2) 固定ボルト（1本）をゆるめて、HSTオイルタンクを外側へ引出します。
- 3) HSTオイルタンクが傾かないように固定ボルトを締付けます。
- 4) タンクキャップと内側のゴムキャップを取外し、新しいHSTオイルをUPPER（上限）まで補給します。
- 5) 補給後、ゴムキャップとタンクキャップを確実に取付けます。
- 6) 固定ボルトをゆるめて、HSTオイルタンクを元の位置に戻し、固定ボルトを締付けます。



指定オイル・・・4サイクルガソリンエンジンオイル

SAE 5W-30 SE級以上

オイル容量・・・1.95リットル（オイルタンクの上限と下限の間にあること）

[重要]

補給時、タンクの中にゴミなどの異物が入らないように、十分注意してください。
異物が混入すると、HSTが故障する原因になります。

11. 点火プラグ

電極が汚れていたり、プラグすきまが不適當な場合、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因となります。

<清掃時期>

100時間運転毎または、1年毎のいずれか早い方

<交換時期>

300時間または2年毎

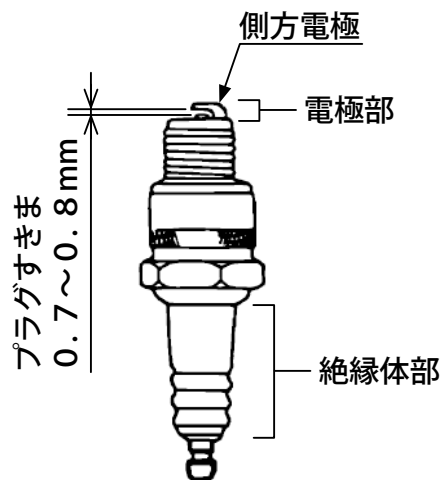
<清掃>

- 1) 点火プラグキャップを外して、プラグレンチで点火プラグを取外します。
- 2) 点火プラグの焼け具合を点検します。通常はキツネ色に焼けますが、黒くくすぶっていたり白く焼けすぎているときは、販売店に相談してください。
- 3) 絶縁体部が汚れている場合は、パーツクリーナーを吹き付け、ナイロン製のブラシ等でカーボンを落とします。汚れが落ちない場合は点火プラグを交換してください。

<調整>

- 1) プラグすきまを点検し、側方電極を曲げてプラグすきまを0.7~0.8mmに調整します。
- 2) 取付けはまず指で軽くねじ込み、次にプラグレンチで確実に締付け、プラグキャップを確実に取付けます。

点火プラグキャップ



⚠️ 注意

エンジン停止直後はエンジン本体、点火プラグの温度が高いため、エンジンが冷めてから点火プラグを外してください。高温部によって火傷をするおそれがあります。

[重要]

指定プラグ・・・品番：98079-54846

品名：プラグ, スパーク (BPR4ES) (NGK)

- ・故障の原因となるため指定以外のプラグを使用しないでください。
- ・電極部ではなく、絶縁体部を清掃してください。
- ・ワイヤーブラシ等の金属製のブラシでは清掃しないでください。絶縁体部に金属粉が付着し、絶縁性が保てなくなる場合があります。
- ・プラグの取付けは、ネジ山を壊さないように、まず軽く指でねじ込み次にプラグレンチとプラグレンチハンドルで確実に締付けてください。
- ・点検調整後はプラグキャップを確実に取付けしてください。確実に取付けしないとエンジン不調の原因となります。

12. クローラー

<始業点検>

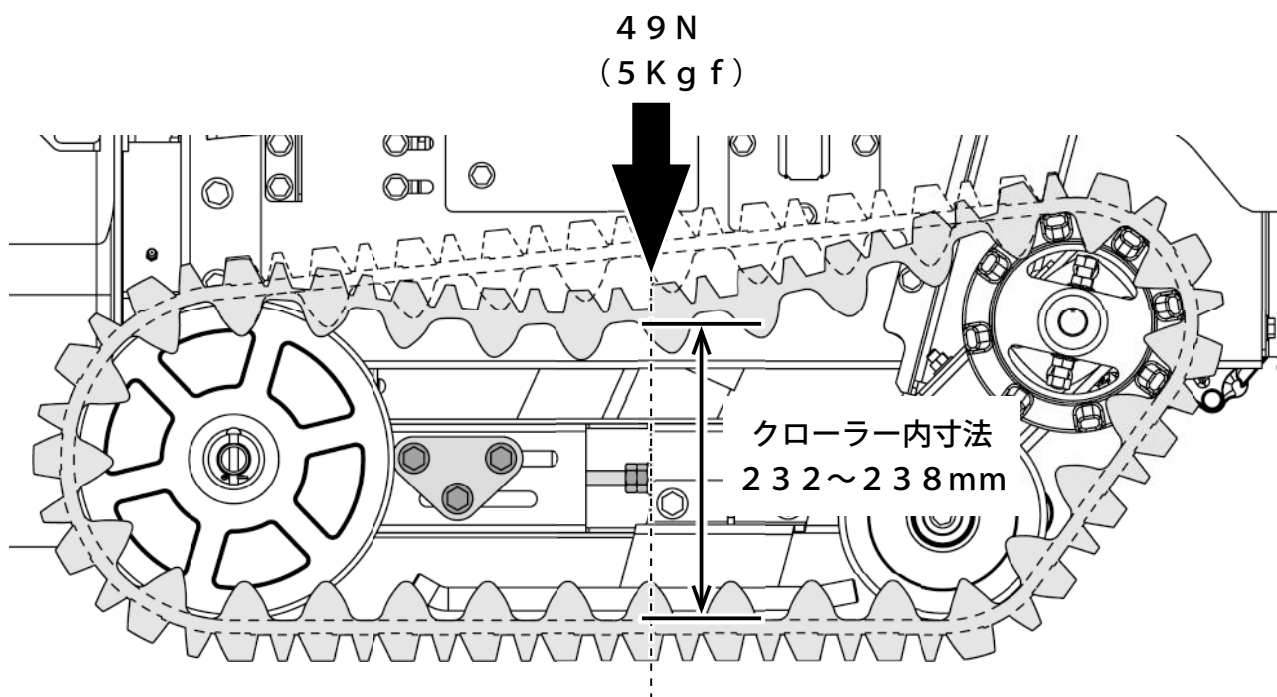
クローラーに損傷がないか点検します。

<クローラー張り出し調整時期>

100時間運転毎または、1年毎のいずれか早い方

<クローラー張り出し調整>

クローラー中央部を49N（5kgf）で押したときのクローラー内寸法が232～238mmの範囲内か点検します。クローラー内寸法が既定の範囲外にある場合は、お買い上げいただいた販売店へ調整を依頼してください。



[重要]

クローラーの張り出し寸法が正常でないと、クローラーの外れや、クローラーの寿命の著しい短縮の原因となります。

13. 除雪部の点検



危険

シャーボルトの交換は必ずエンジンを停止してから行ってください。機械が動いたり、オーガやブロワが回転し重大な事故を引き起こすおそれがあります。

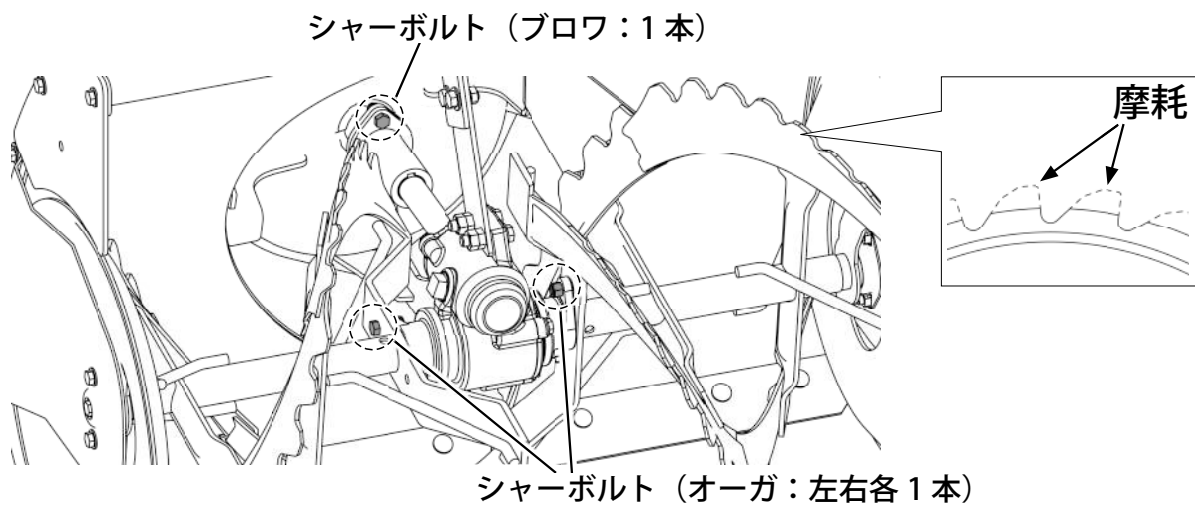


警告

シャーボルト交換時は保護手袋、長袖を着用してください。

<除雪部の点検>

オーガ、ブロワ、オーガハウジング、シュータに損傷がないか点検します。オーガやブロワは、石などの異物の巻き込みにより摩耗し、除雪性能は徐々に低下します。



シャーボルトは、異物の噛み込みなどにより異常な負荷が加わると折損し、本機を保護します。

<シャーボルトの点検>

シャーボルトがゆるんでいる場合は、付属の12mmのスパナまたはメガネレンチで増し締めします。シャーボルトが折損している場合は交換します。

<シャーボルトの交換>

- 1) 本機を水平な場所に移動し、停車します。(P.39参照)
- 2) エンジンが停止し、オーガ、ブロワの回転が停止していることを確認します。
- 3) オーガやブロワに異物(石、棒、ロープなど)がある場合、異物を取り除きます。
- 4) 折損したシャーボルトを取り除き、新しいシャーボルト・ナットに交換し、確実に締付けます。

[重要]

- ・シャーボルトは、必ず純正のものをご使用ください。純正以外のものを使用すると、機械が破損するおそれがあります。

品番: 90002-B10-000

品名: シャーボルト 8×25 (ロックナットASSY) (ブロワ・オーガ共通)

- ・オーガやブロワに著しい損傷や摩耗がみられる際は、適切な修理を行うためお買い上げいただいた販売店へ修理を依頼してください。

14. ソリ

<点検>

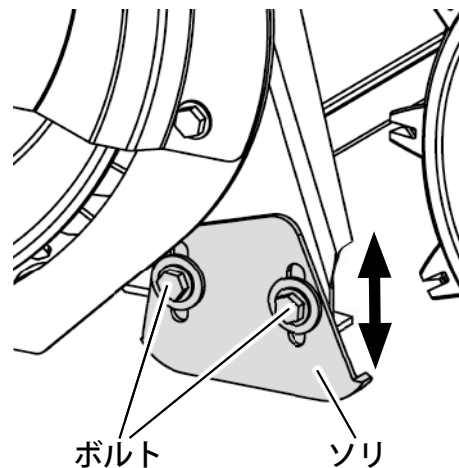
ソリの底面がすり減っていないか点検します。

すり減っている場合は、ソリの調節または交換が必要です。

<調整・交換>

- 1) オーガハウジングを上昇させ、ソリを地面から浮かせませす。
- 2) ソリを固定しているボルト2ヶ所をゆるめ、任意の高さに調整した後ボルト2ヶ所を締めます。交換の場合はボルトを2ヶ所を外し、新しいソリを取付け、任意の高さに調整した後ボルト2ヶ所を締めます。

※ソリは左右同じ高さに調整してください。



本機左側用ソリ・・・品番：31901-B02-801

品名：ソリ L

本機右側用ソリ・・・品番：31902-B02-801

品名：ソリ R

[参考]

ソリの底面が擦り減ると、オーガが地面等に接触しやすくなるため、シャーボルトの折損頻度が高まります。オーガと地面が接触しない程度にソリの高さを調整してください。

15. バッテリー

⚠ 危険

- ・バッテリーからは可燃性ガスが発生しているため、取扱い時は火気厳禁です。守らないと、火災や爆発によるやけどや死亡事故を引き起こすおそれがあります。
- ・バッテリーの取扱い時は、保護メガネ、ゴム手袋等の保護具を着用し、バッテリー液（希硫酸）が身体や衣服に付着しないようにしてください。万が一付着した場合は、直ちに下記の応急処置を行ってください。身体に付着した場合は、応急処置の後直ちに専門医の診断を受けてください。守らないと、衣類が破けたり穴が空いたり、やけど、失明、死亡事故、その他重大な症状を引き起こすおそれがあります。
 - a) 衣類に付着した場合：付着した衣類を脱ぎ、流水でよく洗ってください。
 - b) 皮膚に付着した場合：付着した箇所を洗剤と流水でよく洗ってください。
 - c) 目に付着した場合：まぶたを指でよく開いて、長時間(15分以上)流水でよく流してください。
 - d) 飲み込んだ場合：何度もうがいを繰り返して、その後多量の水を飲んでください。また、一度飲み込んだものは無理に吐き出さないでください。

⚠ 警告

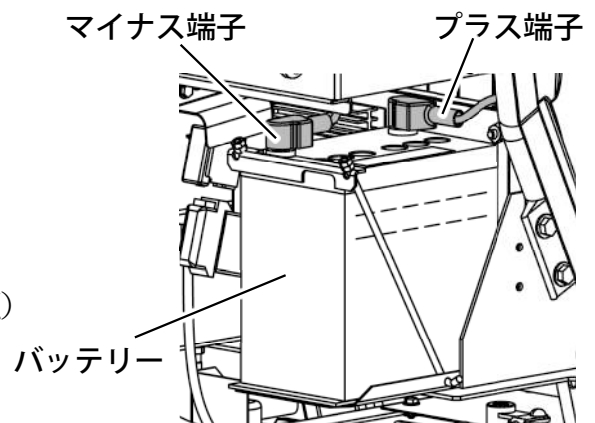
- ・バッテリーの充電やバッテリー液の補給の際に液槽キャップを開けた場合は、充電・補給後に必ず液槽キャップを確実に閉めてください。守らないと、バッテリー液がこぼれて機械の損傷、環境被害、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- ・バッテリー端子を取付けるときはプラス側を先に取付け、取外すときはマイナス側を先に取外します。守らないと、ショートしてやけどや火災を引き起こすおそれがあります。
- ・プラス端子とマイナス端子を金属工具などの接触によってショートさせないでください。

<バッテリーの点検>

- 1) リヤカバーを開けます。（P.5 1 参照）
- 2) バッテリーの液面が各槽とも上限と下限の間にあるか点検します。

<バッテリー端子部の手入れ>

- 1) リヤカバーを取外します。（P.5 1 参照）
- 2) リヤサイドカバーRを取外します。（P.5 2 参照）
- 3) 端子部にゆるみ、腐食がないか確認します。
ゆるんでいるときは締付けます。
端子に白い粉がついているときや、端子部が腐食している場合は、販売店へ連絡してください。

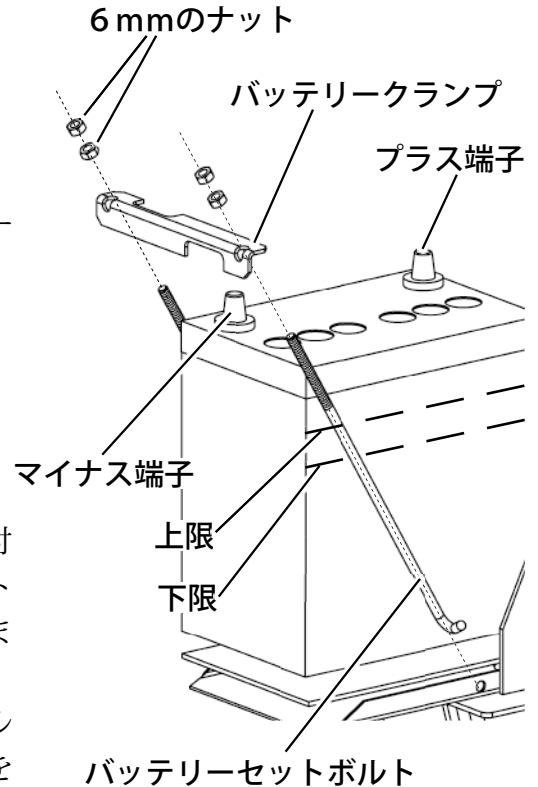


<バッテリーの取外し>

- 1) リヤカバーを取外します。(P. 51 参照)
- 2) リヤサイドカバーRを取外します。(P. 52 参照)
- 3) バッテリーのマイナス端子の接続を外します。
- 4) バッテリーのプラス端子の接続を外します。
- 5) 6 mmのナット(左右各2個)をゆるめ、バッテリークランプを取外し、台座よりバッテリーを取外します。

<バッテリーの取付け>

- 1) バッテリーを台座にセットします。
(プラス側が本機前側になるように)
- 2) バッテリーのプラス端子を接続します。
- 3) バッテリークランプとバッテリーセットボルトを組付け、6 mmのナットを左右のバッテリーセットボルトへ各1個ずつ均等に締めつけてバッテリーを固定します。
- 4) 残りの6 mmのナットを左右のバッテリーセットボルトへ各1個ずつ取付け、先に取付けしていたナットをスパナでおさえながら上のナットを締め付けます。
- 5) バッテリーのマイナス端子を接続します。



<バッテリー液の補給>

バッテリー液が少ないときは、バッテリーを本機より取外して、バッテリー液(蒸留水)を上限付近まで補給します。
(バッテリー液の取扱い注意事項はP. 60を参照のこと)



警告 バッテリー液を「下限」以下や「上限」以上にしない

バッテリー液は「上限」と「下限」の間にあることを確認してください。

- ・「下限」以下にすると、容器内の極板接続部がバッテリー液面から露出します。エンジン始動時に発生した火花が容器内のガスに引火した場合、容器が破裂し重大な傷害を負うおそれがあります。
- ・バッテリー液を「上限」以上入れないでください。「上限」以上にすると、液もれにより周りを腐食させ、機械の故障や傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- ・万が一バッテリー液をこぼした場合は、必ず水洗いをしてください。

[重要]

交換した古いバッテリーは放置したり捨てたりせず、お買い上げいただいた販売店または産業廃棄物処理業者へ処分を依頼してください。

バッテリーの仕様: 40B19R (市販品)

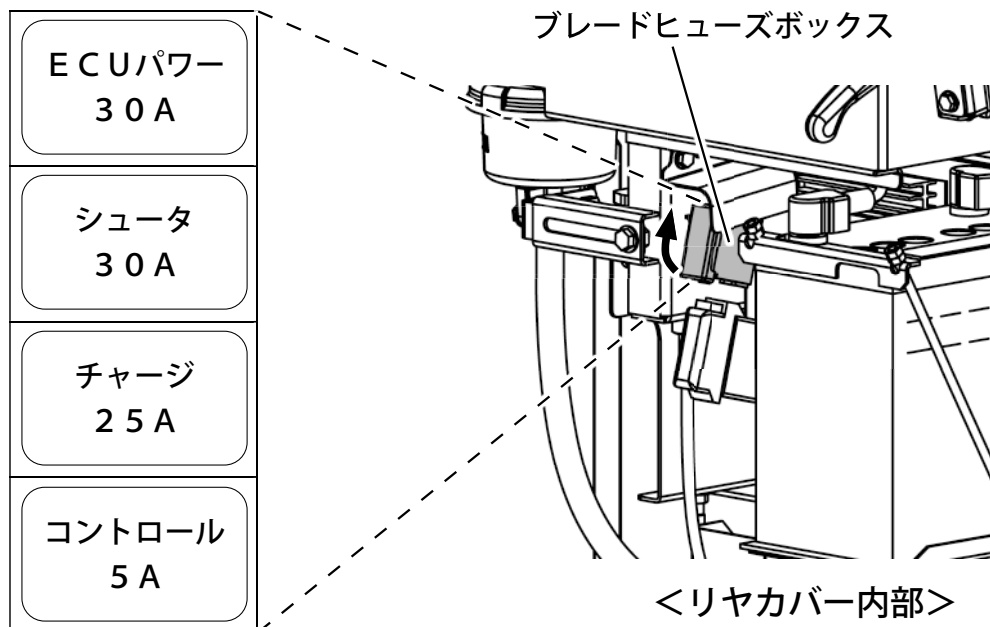
16. ヒューズ

<点検時期>

シュータやオーガハウジングが動かなかったり、作業灯が点灯しないなどの電気系統に異常があるときに点検します。

<ブレードヒューズの点検・交換>

- 1) リヤカバーを開けます。(P. 51 参照)
- 2) ブレードヒューズボックスのカバーを取外します。
- 3) ヒューズが切れているか点検します。ヒューズは、つまんで引っぱると抜けます。ヒューズが切れている場合は、ヒューズが切れた原因を調べて、修理してから指定のヒューズに交換してください。点検・交換したヒューズは、確実に差し込んでください。



<ブレードヒューズボックス内部位置>

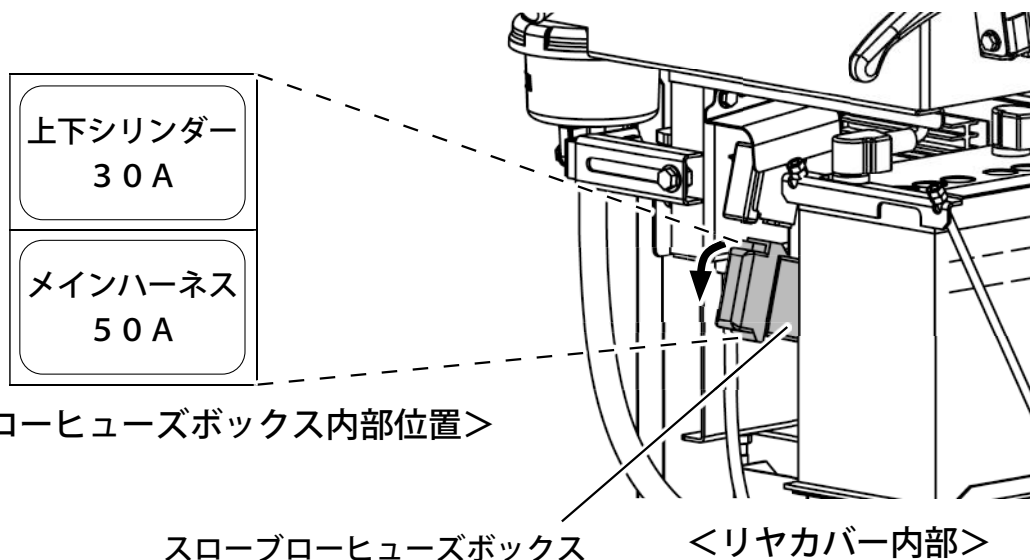
品番：91811-105	品名：ブレードヒューズ 5A
品番：91811-125	品名：ブレードヒューズ 25A
品番：91811-130	品名：ブレードヒューズ 30A



ヒューズが切れている場合は、ヒューズが切れた原因を調べて、修理してから指定のヒューズに交換してください。修理せずに交換した場合、再びヒューズが切れるおそれがあります。守らないと、火災が発生し傷害事故を引き起こすおそれがあります。

<スローブローヒューズの点検・交換>

- 1) リヤカバーを開けます。(P. 51 参照)
- 2) スローブローヒューズボックスのカバーを開けます。
- 3) ヒューズが切れていないか点検します。切れている場合は、お買い上げいただいた販売店で本機の点検を受けてください。



品番：91811-330
品番：91811-350

品名：スローブローヒューズ 30A
品名：スローブローヒューズ 50A

[参考]

スローブローヒューズはヒューズの種類で、万が一、配線回路（常時通電している回路）へ過大な電流が流れた場合、溶断されることで電流を遮断します。

17. その他の点検

快適で安全な作業をするためには、機械の状態をいつも最良にしておくことが大切です。次の点検も忘れずに行なってください。

- 1) 燃料やオイルのもれはないか。
- 2) エンジン周辺にゴミや汚れが付着していないか。
- 3) 各部にゆるみやガタはないか。
- 4) 電気部品・配線コードの損傷や接続外れなどはないか。
- 5) 各部の作動状態は正常か。
- 6) 前回の運転時に悪かったところはないか。（異音、振動、異臭 など）



機械の不具合が解消しないまま作業を行わないでください。
守らないと、機械の故障や思わぬ傷害事故を引き起こすおそれがあります。

18. 燃料の抜きかた

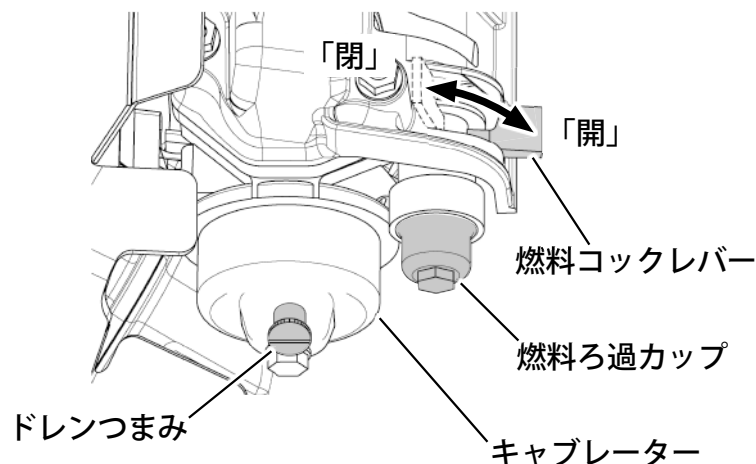
⚠ 危険

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。

ガソリンを抜くときは

- ・エンジンを停止させてください。
- ・火気を近づけないでください。
- ・換気のよい場所で行なってください。
- ・マフラーなどの高温部が十分に冷めてから行なってください。
- ・ガソリンはこぼさないように抜いてください。万が一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取り、拭き取った布きれなどは火災と環境に注意して処分してください。
- ・電動式ポンプは絶対に使用しないでください。給油のスイッチ入・切の操作時に火花が発生し、ガソリンに引火するおそれがあります。

- 1) 本機を駐車します。(P.41参照)
 - 2) サイドカバーLを取外します。(P.51参照)
 - 3) 燃料タンク内のガソリンを手動式ポンプ等で容器に移します。
 - 4) 燃料ろ過カップを外し、キャブレーター下部のドレンつまみを回して、ガソリンを容器に受けます。
 - 5) 燃料コックレバーを開いてガソリンを容器に受けます。
 - 6) 完全に燃料が抜けたら、ドレンつまみを締め、燃料ろ過カップを取付けます。
 - 7) 取外したサイドカバーLを元に戻します。(P.51参照)
- 再び作業する際には、燃料を補給してください。(P.53参照)



10章 長期間使用しないときの手入れ

除雪シーズンが終わり長期間保管するときは、次のシーズンも快適にお使いいただくために次のことを必ずお守りください。

1. 保管するときはエンジンスイッチ（キー）を取外します。
2. バッテリーのマイナス端子の接続を取外します。 (P. 61 参照)
3. エンジンオイルを交換します。 (P. 54 参照)
4. 燃料タンク、キャブレーター内のガソリンを抜きます。 (P. 64 参照)
5. エンジン等の高温部が冷めた後、ビニール等でカバーをし、湿気やホコリの少ないところに保管します。

[重要]


- ガソリンは時間の経過とともに劣化するため、長期間保管の前に必ず抜いてください。
- エンジンオイル、HSTオイルは時間の経過とともに劣化するため、使用しない場合でも定期的に交換してください。
- 長期間使用しないしているとバッテリーは放電するため、6カ月に一度、および除雪時期のはじめと終わりに充電を行ってください。なお、充電するときは必ずバッテリーを本機より取外して行ってください。


10章 長期間使用しないときの手入れ

6. 保管時の注油、グリースアップ

水気や汚れを拭き取り、乾燥させた後、各部にオイル注油またはグリースアップをします。

<注油、グリースアップ箇所>

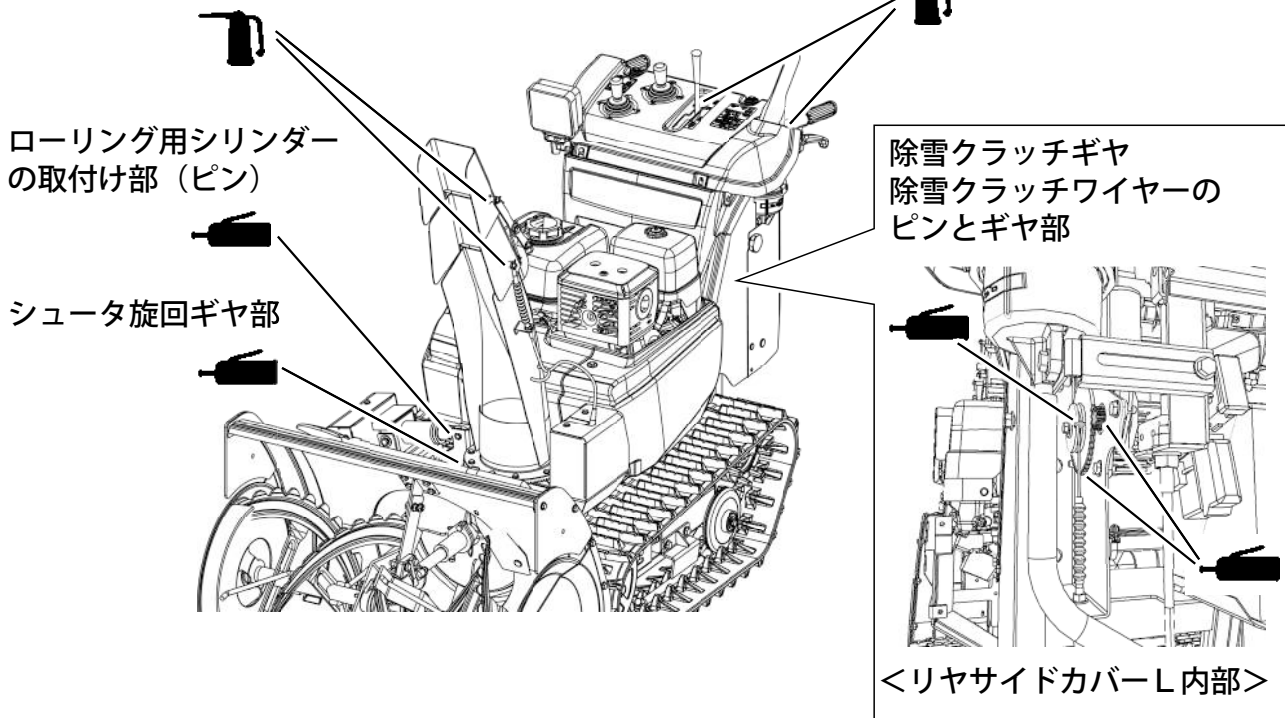
・・・グリースアップ箇所

・・・オイル注油箇所

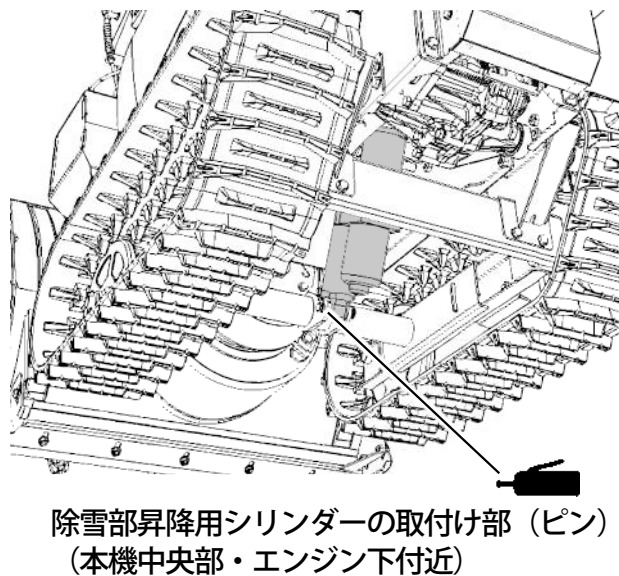
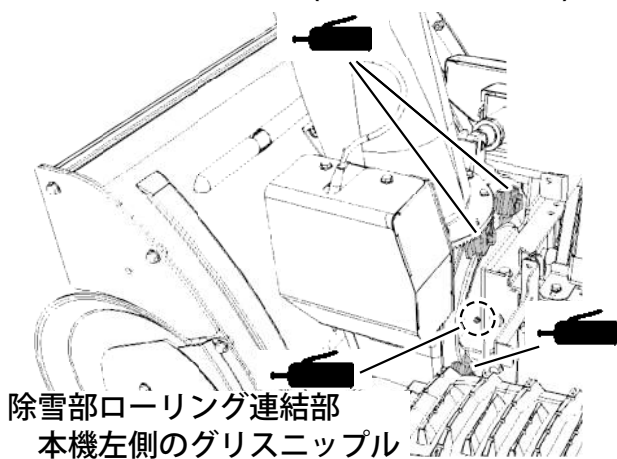
使用グリース：シェル アルバニアグリース S 1
または 同等品
使用オイル：エンジンオイル

各リンク支点・回動部

各レバーの支点・リンク部



除雪部ローリング連結部
ローリング部押さえ(上下左右計4ヶ所)



11章 不調診断のしかた

本機の異常を感じたときは、ご自身で次の点検を行ってください。故障が疑われるときは、むやみに分解をせず、お買い上げいただいた販売店へ修理・調整等を依頼してください。

こんなときは	点検見直し箇所	処置方法
エンジンが始動しない (セルモーターが回らない)	制御表示灯が点滅していませんか	制御表示灯エラーコード一覧表を参照し、対処してください (P. 68 参照) または、お買い上げの販売店へ修理を依頼してください
	始動方法を間違っていないですか	「1. エンジン始動のしかた」を参照し正しい手順で行なってください (P. 32 参照)
	ヒューズが切れていませんか	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください (P. 62 参照)
	バッテリーが正しく取付けられていますか	バッテリーを正しく取付けてください (P. 61 参照)
エンジンが始動しない (セルモーターは回る)	燃料が無くなっていませんか	燃料を補給してください (P. 53 参照)
	燃料コックレバーを閉じていませんか	燃料コックレバーを開いてください (P. 32 参照)
	点火プラグキャップが外れていませんか	点火プラグキャップを取付けてください (P. 56 参照)
	ヒューズが切れていませんか	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください (P. 62 参照)
エンジンに力がない	無理な除雪作業をしていませんか	「2. 除雪作業の要領」を参照し適切な負荷で作業してください (P. 47 参照)
	エンジンオイルが規定量入っていますか	エンジンオイルを規定量にしてください (P. 54 参照)
排気の色が黒い	負荷をかけすぎていませんか	「2. 除雪作業の要領」を参照し適切な負荷で作業してください (P. 47 参照)
	チョークレバーを戻し忘れていませんか	チョークレバーを戻してください
排気の色が白い	エンジンオイルを入れすぎていませんか	エンジンオイルを規定量にしてください (P. 54 参照)
走行しない	H S T オイルが規定量入っていますか	H S T オイルを規定量にしてください (P. 55 参照)
	クローラに異物が挟まっていますか	エンジンを停止し、異物を取り除いてください
	走行ベルトがすべっている可能性があります (すべると、焦げ臭くなります)	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください
	走行ベルトが切れている可能性があります	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください
オーガ・プロワが回らない	シュータ、プロワに雪が詰まっていますか	エンジンを停止し、雪かき棒を使用して雪を除去してください (P. 48 参照)
	オーガ、プロワに異物が詰まっていますか	エンジンを停止し、異物を取り除いてください (P. 58 参照)
	シャーボルトが折損していませんか	エンジンを停止し、シャーボルトを交換してください (P. 58 参照)
	プロワベルトがすべっている可能性があります (すべると、焦げ臭くなります)	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください
	プロワベルトが切れている可能性があります	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください
	配線コードの接続コネクタが外れていませんか	接続コネクタを接続してください
除雪部が上下しない	ヒューズが切れていませんか	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください (P. 62 参照)
	配線コードの接続コネクタが外れていませんか	接続コネクタを接続してください
除雪部がローリングしない	ヒューズが切れていませんか	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください (P. 62 参照)
	配線コードの接続コネクタが外れていませんか	接続コネクタを接続してください
シュータが動かない	可動部分に雪や氷がたまっていますか	エンジンを停止し、雪かき棒を使用して雪・氷を除去してください (P. 48 参照)
	ヒューズが切れていませんか	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください (P. 62 参照)
	配線コードの接続コネクタが外れていませんか	接続コネクタを接続してください

11章 不調診断のしかた

こんなときは	点検見直し箇所	処置方法
作業灯が点灯しない	ヒューズが切れていませんか	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください (P. 62参照)
	配線コードの接続コネクタが外れていませんか	接続コネクタを接続してください
	作業灯が故障している可能性があります	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください
エンジンが停止しない	—	燃料コックレバーを閉じてください まもなく、エンジンが停止します (P. 42参照) お買い上げの販売店へ修理を依頼してください

<制御表示灯エラーコード一覧表>

点滅回数	表示イメージ	エラーの状態	主な原因	処置方法	エンジン制御
遅い点滅	— — — — — (1回当たり 0.6秒間点灯)	バッテリー 電圧低下	バッテリーの充電が正常に行われていないか、バッテリーが劣化している可能性があります。	バッテリーの充電、または交換してください。	なし
1回	- - - - - (1回当たり 0.2秒間点灯)	サイドクラッチモーター 過電流検出	サイドクラッチモーターまたはハーネスがショートした可能性があります。	エラーの原因を確認し修理してください。(配線コードの接続コネクタの外れ、ハーネスの配線異常によるショートなど)	自動停止
2回	-- -- -- -- -- (1回当たり 0.2秒間点灯)	ECUパワーライン 電源電圧低下	キースイッチの配線コードの接続コネクタの外れ、バッテリーケーブルの接続不良、またはハーネスがショートした可能性があります。	ヒューズが切れている場合は修理を行った後に交換してください。	
3回	--- --- --- (1回当たり 0.2秒間点灯)	ECU 電源スイッチ異常	ハーネスの損傷や電気部品の故障がみられた場合はお買い上げいただいた販売店に修理を依頼してください。		
4回	----- (1回当たり 0.2秒間点灯)	除雪クラッチ 解除失敗	除雪クラッチスイッチ・除雪クラッチモーターの配線コードの接続コネクタの外れ、またはハーネスがショートした可能性があります。		
5回	----- (1回当たり 0.2秒間点灯)	除雪クラッチモーター 過電流検出	除雪クラッチモーターまたはハーネスがショートした可能性があります。		
6回	----- (1回当たり 0.2秒間点灯)	サイドクラッチ 角度センサー異常	サイドクラッチの角度センサーの配線コードの接続コネクタの外れ、またはハーネスがショートした可能性があります。		
7回	----- (1回当たり 0.2秒間点灯)	主変速レバー 角度センサー異常	主変速レバーの角度センサーの配線コードの接続コネクタの外れ、またはハーネスがショートした可能性があります。		なし
8回	----- (1回当たり 0.2秒間点灯)	サイドクラッチモーター ロック検出	サイドクラッチレバーのひんぱんな操作によりサイドクラッチモーターが過熱し保護機能が作動しています。またはクローラーへの異物の挟まりなどにより走行部がロックした可能性があります。	走行部に異物が挟まっている場合は取除いてください。 エンジンスイッチを「切」位置にして数分間待ってからエンジンを再始動してください。	自動停止
9回	----- (1回当たり 0.2秒間点灯)				
10回	----- (1回当たり 0.2秒間点灯)	フラッシュメモリ 初期化エラー	前回終了時にコントロールユニットの制御用設定データが破損した可能性があります。	設定データの初期設定を行うことでエラーを解消できる場合があります。お買い上げいただいた販売店へご相談ください。	
他	上記以外の点灯状態		コントロールユニット故障の可能性があります。	お買い上げいただいた販売店へ修理を依頼してください。	

[重要]

一覧に記載の処置を行った後も、エラーが解消されない場合や、ひんぱんに点滅する場合は、お買い上げいただいた販売店に修理を依頼してください。

12章 主要諸元

項目		型式名	SXC1380H	
機体寸法	全長	mm	1685	
	全幅	mm	801	
	全高 (デフレクタ上げ時)	mm	1336	
	全高 (デフレクタ下げ時)	mm	1115	
装備重量		kg	255	
性能	除雪幅	mm	801	
	除雪高	mm	580	
	最大除雪量 ※ (グラフの2本の線の間がエンジン最大出力毎の最大除雪量の範囲です。本機の最大除雪量はエンジン最大出力からグラフでご確認ください)		<p>注1) グラフは目安です。雪質などの使用条件により最大除雪量は異なります。 注2) グラフは除雪機安全協議会会員の2017年モデルのデータを基に作成しています。</p>	
	最大投雪距離 ※ (グラフの2本の線の間がブロワ周速毎の最大投雪距離の範囲です。本機の最大投雪距離はブロワ周速からグラフでご確認ください)		<p>注1) グラフは目安です。雪質などの使用条件により最大投雪距離は異なります。 注2) グラフは除雪機安全協議会会員の2017年モデルのデータを基に作成しています。</p>	
	ブロワ周速 (無負荷最高回転数時)	m/s	24.4	

※ 除雪機安全協議会の指示に基づき、2019年度より各社共通のグラフ指標を用いて除雪機性能を表示しています。

12章 主要諸元

項目		型式名	SXC1380H	
エンジン	名称		ホンダGX390	
	形式		空冷4ストローク単気筒ガソリンエンジン（OHV）	
	総排気量	cm ³	389	
	最大出力	kW(PS)/rpm	8.7（11.8）/3600	
	始動方式		セルモーター式／リコイル式	
	使用燃料		無鉛レギュラーガソリン	
	燃料タンク容量	リットル	6.1	
走行部	前進車速	km/h	0～3.2	
	後進車速	km/h	0～1.9	
	トランスミッション駆動		HST	
	クローラー		スノーパターンゴムクローラー	
	幅×接地長×トレッド	mm	180×60×31	
作業部	形式		2ステージ、1オーガ、1ブロワ	
	除雪部上下方式		電動油圧シリンダー	
	除雪部ローリング方式		電動モーター	
	ローリング角度	度	左右各7	
	ブロワ形式		横型ブロワ	
	オーガ形式		2条リボンスクリュー	
	シュータ	旋回方式		電動モーター
		上下方式		2段デフレクタ、電動モーター
シャーボルト	ブロワ		コガタM8×25	
	オーガ		コガタM8×25	
ベルト	ブロワ		オレンジベルト LB40	
	走行		オレンジベルト LA29	
バッテリー			40B19R	

*主要諸元は、本機の改良にともない予告なしに変更する場合がございます。

13章 主要消耗部品および標準付属品

主要消耗部品・交換部品

部品番号	部品名	備考
90002-B10-000	シャーボルト 8×25 (ロックナットASSY)	ブロワ・オーガ共通 10セット入り
35700-B48-603	オーガL COMP	
35800-B48-603	オーガR COMP	
36300-B01-802	ブロワ COMP	
31901-B02-801	ソリ L	
31902-B02-801	ソリ R	
31902-BA3-830	エッジ	
91651-0209040	オレンジベルト LB40	ブロワ 2本
91651-0208029	オレンジベルト LA29	走行 1本
39901-B51-001	雪かき棒	
91811-105	ブレードヒューズ 5A	
91811-125	ブレードヒューズ 25A	
91811-130	ブレードヒューズ 30A	
91811-330	スローブローヒューズ 30A	
91811-350	スローブローヒューズ 50A	
98079-54846	プラグ, スパーク (BPR4ES)	NGK
90601-ZE1-000	ワッシャー, ドレンプラグ 10.2MM	
17210-ZE3-010	エレメント, エアークリーナー	
—	バッテリー 40B19R	市販品

標準付属品

部品番号	部品名	個数	備考
—	保証書, 安全確認カード	1	
91911-BA3-000	取扱説明書 (SXC1380H)	1	
90002-B10-000	シャーボルト 8×25 (ロックナットASSY)	1袋	ブロワ・オーガ共通 10セット入り
91903-B43-000	コンビネーションレンチ 12	2	
89216-ZOT-800	レンチ, スパークプラグ	1	点火プラグ用
89219-805-000	ハンドル, ボックスレンチ	1	点火プラグ用
91811-105	ブレードヒューズ 5A	1	
91811-125	ブレードヒューズ 25A	1	
91811-130	ブレードヒューズ 30A	2	